昭和22年7月10日印刷　昭和22年7月15日發行（毎月1回發行）

建築と社會

日本建築協會

3·4·5

昭和22年3·4·5月號

第28輯　第3·4·5号

石綿スレート・東建テックス
其他建築材料一般

東洋建築板株式會社
大阪營業所

營業所・大阪市北區曾根崎上一丁目二八番地
電話豊崎(37)一七〇七番

不二工業株式會社

取締役社長　村上　勇

大阪市北區曾根崎新地二丁目二六

建　築
設計・施工

日新建設工業合資會社

大阪市北區老松町三ノ六一・電話堀川㊱八二〇番

株式會社　錢高組

本　店・大阪市西區土佐堀三ノ二四
電話土佐堀㊹3451番
東京支店・東京都中央區築地四ノ三
名古屋支店・名古屋市中區材木町一ノ五
福岡支店・福岡市萬行寺前町一五番地
出張所・呉・神戸・仙臺

水道・衛生・煖房施設
大正便所・水槽便所　設計施行

株式會社　大阪城口研究所
城口龜吉

大阪市北區高垣町一・電話豊崎㊲{一一八一 一一八二
京都市東山區大和大路大佛前・電話祇園四七四二

新營業所開設案内

室内裝飾設計施工
高級家具及造作
裝飾用裂地
オリエンタルクロース施工
工藝美術品

河津裝飾合名會社

新營業所・大阪市北區堂島上通一丁目二四
(堂ビル前高橋盛大堂横西入)
舊營業所・豊中市服部四三三(元信濃橋)

屋根瓦

フレンチ瓦
日本型瓦
S型瓦　製造販賣並ニ工事請負
其他建築材料一式

東洋瓦産業株式會社
社長　青木友一
大阪市天王寺區大道三丁目一二五番地

ロータス防水工法責任施工

セメント防水劑ロータス
セメント急結劑クキツクロータス
セメント防凍劑耐寒ロータス
石綿塗料フアイバーコート
セメント木毛不燃板
マグネシヤ床工事請負
アスファルト防水施工請負

關城化學工業所

大阪營業所・大阪市北區茶屋町三八番地
電話豊崎(37)三二一九番
電信略號オウサカイウビン
ロータスポースイ
西宮分室・西宮市下葭原町六番地
電話西宮二六八二番

住宅經濟の再建

ニシヤマ・ウゾー

（1）

現在わが國の當面している危機の一つは國民經濟が縮小再生產過程にあるということである。

住宅經濟もその例にもれない。戰時中からつづけられて來た喰いつぶし經濟が、今もつゞいている。消耗戰爭で生じた450萬戸の住宅不足に對して何の有効な充足對策がおこなわれていないだけでなく、刻々の老朽とヒンパンな火災、震風水災で多量に損耗してゆく住宅の補充さえ困難である。わが國の恒常改築所要住宅量は最低年20萬戸、まづ30萬戸と計算されているのに、終戰後1年半の間にたてられた住宅は、壽命のみじかいバラックを含めて40萬戸にすぎない。しかもその建設速度さえ現在では維持出來かねる現狀である。

此の住宅經濟の縮小再生產過程にとゞめを刺すには、無論全國民經濟の復興、その擴大再生產過程への發足を必要とするが、併し同時に全經濟の復興過程の中で住宅問題のもつ重要性の比重を正しくみとめることが何よりも必要である。國民生活をギセイとして軍國主義的發展に狂ホンしてきた過去の我國には、合理的な「住」の要求を無視したやり方が普通とされてきたが、このあやまつた住居觀念を根本的にたゝき直す必要がある。つまり新日本再建の正しい發展のためには、働く人々の居住狀態の正常な回復と改善が最も必要な條件であることを嚴肅にみとめねばならない。そしてこれを實現するため、一刻も早く一貫した住宅政策の方向を定め、これをおし進める思い切つた手をうつことが必要である。

（2）

ざつと考えただけでも

(1) 目前の資金・資材の制約に眩惑されない不燃都市の建設

(2) 都市の無統制亂雜な發展を調和ある形にもつて行く都市の計畫的建設

(3) 資本主義社會の宿命である住宅問題を解決するための住宅經濟の社會化・計畫化

(4) 技術的經濟的に手工業的封建的な古い建築生產の機械化合理化による飛躍的改革

といつた重大な目標がどうしても確立されねばならない。そして、その着手として

建築生產の改革の基礎となる資材生產面を擴充する基礎工作、建設事業に對する金融問題の合理的解決、住宅供給に對する國家資本の全面的注入、建設費・家賃・生計費等をめぐる住宅經濟の根本的たてなおし、市街地私有制度に對する重大な修正、などは直ちに着手されねばならない。

なかでも住宅建設に必要な基礎的資材の生產增强に關する方策、都市の合理的再建計畫の完成等の積極的な對策と共に、市街地・特に罹災地の計畫的再建を可能にする土地使用權の收公、土地投機を抑制し都市發展の恩惠を人民のものとするための財產稅評價を起點とする土地增價稅の設定、住宅の全面的不足に基づく局部的な窮狀を打破するための居住狀態平衡化の各種措置の斷行、及び住宅經濟の建てなおしのための家賃平衡稅、餘裕住宅稅等の新設、などは今直ちに着手されねばならぬ緊急の對策である。

私はこのうち特に最後者、つまり「住宅經濟」の面に必要な對策について以下簡單にのべたい。

（3）

住宅の新建設を最大限度急速に押しすゝめること、それが完成するまでの相當長期間に既存施設を最大限合理的に社會的に動員する方法を講ずること——現在の住宅對策はこの二つに要約出來るが、これをおしすゝめるためにはあらゆる面のお膳立てができていねばならぬ。そのうち從來しばしば見落されているのが住宅經濟の面、住宅が生產され流通し消費されて行く循環過程を推進してゆく經濟的な面である。

現在貸家住宅の家賃は昨年わづかの修正がみとめられたゞけで昭和14年以來の枠に釘付けにされている。ところが敗戰後急激に進行したインフレによつて、現在ではタバコ一箱にも相當しない家賃が多い。ところがこれらに對して「戰災者をみよ」といつたたぐいの舊來の封建的非合理的な感情論で片づけている人が非常に多い。

家賃がやすいということは結構だ。まつたくわが國の人民は粗末な住宅に比し高い家賃を背負わされていた。併し、問題はそれが合理的な基礎に

たつ低家賃であるかどうかといふことである。もしそれがそうでなかつたなら、家賃を低めることはそれによつてわれわれみづからが人間としての住まいを營む權利をホーキしていることになるのである。そして事實我々はそういうペテンに引つかゝつているのである。

家賃が他の物價に對して低いということよりも實は新に建築された住宅の正當な採算上要求されるそれとはケタちがいに低いというところに、より大きな問題のあることを見逃してはならぬ。

（4）

本當に低物價政策を押しとおすための低家賃政策ならば、新建設の住宅にも同じ樣に家賃をやすく出來るような何等かの形の國家的補助が必要である。昨年3月の金融緊急措置によつて生活費に500圓の枠がきめられたときも2.1ストのさい物價廳で作成した5人家族1300圓の生計費にも、共に坪3.5圓の家賃が基礎になつていた。最近一應妥結をみた官公勞の給與平均額1600圓ではどうなつているか知らぬが、餘りこれとは變つていないだろう。ところが、4分3厘の低利資金の融通をうけるとしても、建設費坪2000圓の住宅では家賃はその6倍の20圓とらねばマイナスの慈善事業になる。建築費が昨今の樣に6千圓、1萬圓となり更に15倍、20倍となる。

戰前わが國の都市住宅の8割はレイ細な小貸家業者により供給されていたが、これでは誰も建て得ない。結局住宅をたてることの出來るのは高い建築費でも結構もうかる資本家、新圓成金、ヤミヤだけである。だから昨年末まで建つた40萬戸という住宅も殆どすべてが店舗住宅か持家であつて貸住宅の如きは公共團體・住宅營團がたてた雀の涙ほどのものだけであつた。

併しベラボーな高い家賃の住宅でも、家がないのだから借り主は押すな押すなのとり合いである。そうした高い家賃の住宅が大イバリで賃貸借されているところに、いくら警察的統制の眼を光らせても合意のヤミ取引はゾク生せずにはおかぬ。そのヤミ家賃がゴー慾な家主のフトコロに入つて多少でも住宅の再生產（修理や新投資）に向けられるのはまだいゝ方で　人のいゝ家主の家にすむ借主の中には他人に轉貸して權利金といふ奴を横取りし、浪費してゐるものが多い。つまり當然住宅經濟の中に流れこむべきものがほかに流れ出てしまつて、住宅經濟は荒廢するばかりである。現在おこなわれている低家賃政策は何等積極的なイミを持たぬのみか、この樣に住宅經濟を荒廢させる惡意にみちた政策である。

もし坪3.5圓の低家賃政策を押し通すのなら、最低の數字で1戸當12坪、年40萬戸、を建設するとして坪單價6千圓の場合年額274億の補助金が必要である。22年度の豫算にそんなものは見當らない。つまり低家賃政策は人民をあざむく一種のペテンであることがよくわかる。

（5）

270億という金は國民消費2000億（1人月200圓、8000萬人で1920億）の13.5%だから別におどろく程度のものではない。

問題はこれをどういう形で住宅の建設に流しこむかということである。

稅金として國家にとりあげられたものゝ中から國家資本として住宅建設に投資される。この形は資本主義社會につきものゝ住宅問題を解決する「住宅公營」の方向にそうものとして最も推賞される。

同じく稅金の中から支拂われるが、各住宅經營の採算のなりたつ樣に補助金として交付する——これは始めの年度は交付金が少くてすむから財政的負擔は少い。併し資金難で建設がそう促進されるとは期待出來ぬ。

これらの方法がいづれも不可能なら進んで高家賃政策を計畫的に採用することだ。つまり、國民生活資金として國民の手に渡される生活費の中から住居費として個々の住宅經營の中にその經營採算が成りたつ額だけ流すシステムである。といつても自由氣まゝにするのではなく、家賃としてはその利用度により新舊住宅の家賃が平衡するごとく家賃水準を全體的に合理的な高さに引きあげる。但しこの方法には必ず次の手を併用せねばならない。第1は賃銀俸給の基準を家賃の値上り分だけ引きあげること。昔の住宅に住んでる人々の住居費は現在せいぜい生計支出の2.3%であるから家賃引上げの合理的餘裕は相當あるとみてよい。第2は舊い住宅の家賃引上げ分のうち手數料を除いた大部分を家賃平衡稅として收公し、これを新建設の資金及び舊住宅の修繕費補助にまわすことである。

第3の方法が最も手輕であり、又住宅投資のための國家資金を蓄積する手だすけともなると考えられる。

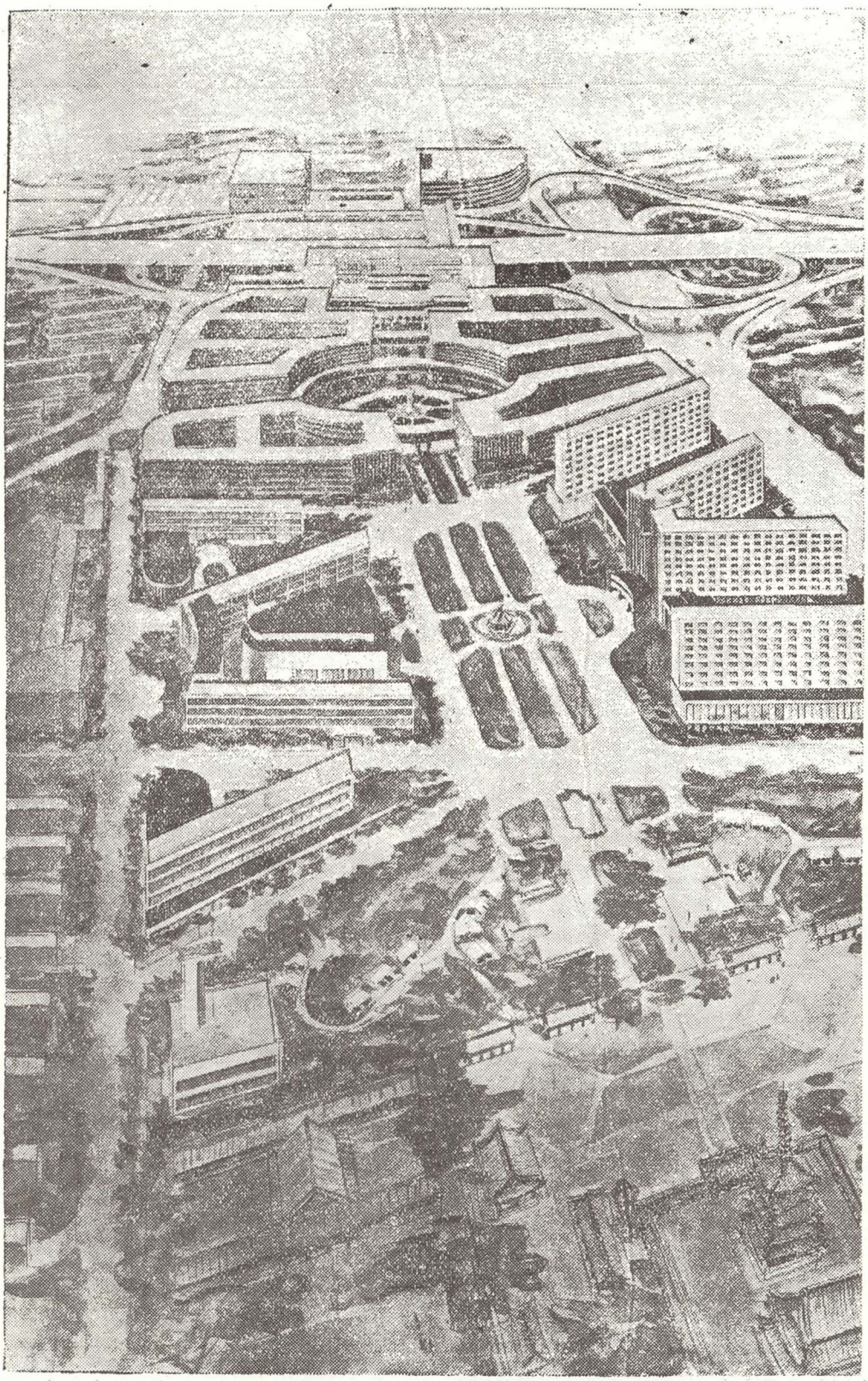
（6）

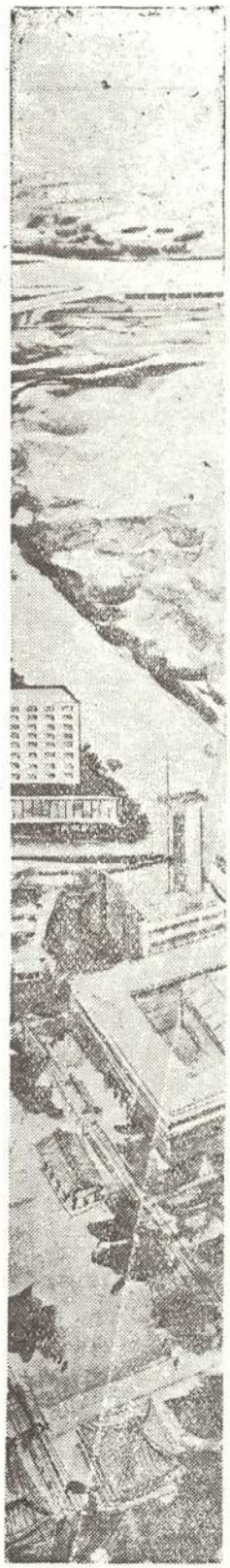
餘裕住宅稅、その他の點について更にのべたいが、紙數も大分超過したのでこの邊で打ち切る。

—1947. 5. 12—

大阪市天王寺區公館地區復興設計當選圖案　入選　西山卯三







1 陳列館
2. 消防署
3. 國際ホテル
4. オフイス・ビル
（下3階商店街）
5. 〃
6. 表口廣場
7. 自動車駐車場
8. 西口
9. 乘車口
10. 天王寺驛本館
11. 階上連絡路
12. 自動車駐車場
13. 降車口自動車乘場
14. バス始發場
15. 百貨店
16. 2號路線
17. 裏口廣場
18. 四天王寺
19. 團體宿泊所
20. 電話局
21. 茶店群
22. 保健所・產院・乳兒院
23. 圖書館
24. 市民館
25. 市營ホテル・食堂
26. 區役所・警察署・稅務署（上階貨事務所）
27. オフイス・ビル
（下3階商店街）
28. 荷物口
29. 地方連絡路線
30. 省線
31. 大鐵
32. 阪和
33. ガレージ
34. 車輛工場
35. 小學校
36. 配給所
37. 家族住宅（中層4階）
38. 中學校
39. 39號路線
40. 獨身者住宅（高層7階）
41. 小學校
42. 環狀線（城東線）
43. 家庭住宅（中層4階）
44. 奈良線
45. 6號路線
46. 大鐵線・阪和線

天王寺區公館地區設計案說明書

本案は人口10—20萬の單能中都市が「都心都市」を中心として緊密な連合を形成してそれが地方圈の中心となるといふ「都市聯合組織論」の立場（「新建築」1946. 3+4）から、近畿地方の中心聯合都市圈を京阪神三都の鼎立狀態に求めそのうち商業經濟の中心となる大阪聯合都市の構成を計畫し、又特にそのうちの一單能都市たる天王寺區の都心部を計畫せるものである。

全大阪聯合都市の地域計畫圖及交通圖は本提案には省略したが、各單能都市の連合配置は高速度鐵道で結ばれ、これによつて人及び重荷物の輸送連絡をなし、之を補助する自働車路として道路網を組織する。道路計畫は大體既定の復興計畫のものと大差ない、但し現實にはそのうち交通上本質的に重要なものとしからざるもの（例へば綠地道路）とを區別して考へる必要がある。（計畫圖省略）

本案に示せる「天王寺市」は大阪聯合市の南部玄關をなす「交通都市」である。

環狀線上にあり、南方、南東方への交通網の出發點をなし、天王寺公園及び四天王寺を中心にもつ大阪の旅客基地をなす。この性格上、本市の中心部には、天王寺綜合驛、交通中心に隨伴する商業中心、國際ホテル等の旅客施設、ガレーヂ等の交通建築、及び之に附隨する車輛工業が位置し、交通業的都心を形成する。

天王寺驛を中心としてやゝ北よりに都心が位置する關係で、本提案の天王寺市は從來の「天王寺區」とことなり、上半分は上六を中心とする城南輕工業都市の區域にうつり、反對に現在阿部野區に屬する南側の地域が本市の住居地域としてとり入れられる。

本市を通る本質的に重要な街路は、大阪市を東西に拔ける6號線と、南北に淀川までぬける2號線とである。その交錯は立體交錯とする。この立體交錯に接して天王寺綜合驛が計畫され之に接する商業地域の北裏、四天王寺綠地との間に天王寺市公館地區が配置される。

公館地區面積は附屬綠地を入れて 8ha である。（道路をも含む）

建築構成は、區役所、警察署、勤勞署、稅務署、水道電氣營業所等一連の事務的官公署をこの地區最南の商業中心に接する8階建ビルの下層階に綜合配置し、建築的には商店街と同じく市民に極めて親密な構成をあたへる。その裏側、國際ホテルに對置して市民館及圖書館が文化中心を形成し、それと事務官署の間に市營簡易ホテル、食堂等があり、更に四天王寺前の綠地よりに保健所、產院等を設ける。電話局、消防署は四天王寺綠地の角に設ける。

南區公館地區設計案說明書

本案は堺筋の縱貫する高層オフイス・ビル中に含まれたる公館地區案にして、ほゞ長堀橋以南の運河に圍まれたる地域を選定した。

高層オフイス・ビルは15階にして中心部の二棟に於ける1.2.3階を主なる公館にあてた。

上階は本區の商業的性格に基き、これを事務用の空間とした連絡及び通勤交通の手段として建物の中央部を貫く二層の交通路を設け、上層はトロリーバス專用路とし、下層は人及び自動車の交通路とした。

又各建物の兩側面及び中間にも道路を設け西方の商業地域との便をはかつた。尙ほ商業地域は8層にして、1.2.3階に商店、上階に住宅をとり、アーケード式とし3階床面に步道を設け且つこれは陸橋をもつて高層オフイス・ビルに連絡してゐる。

高層オフイス・ビルに於ける駐車場は、各建物と北側（中間）の道路にはさまれた場所とした。又上下交通は中央部に 2ケ所及び兩側面に設けた。

高層オフイス・ビル群と運河に圍まれた地域をもつて、ホテル、公會堂、展示館を含む一大綠地とした。

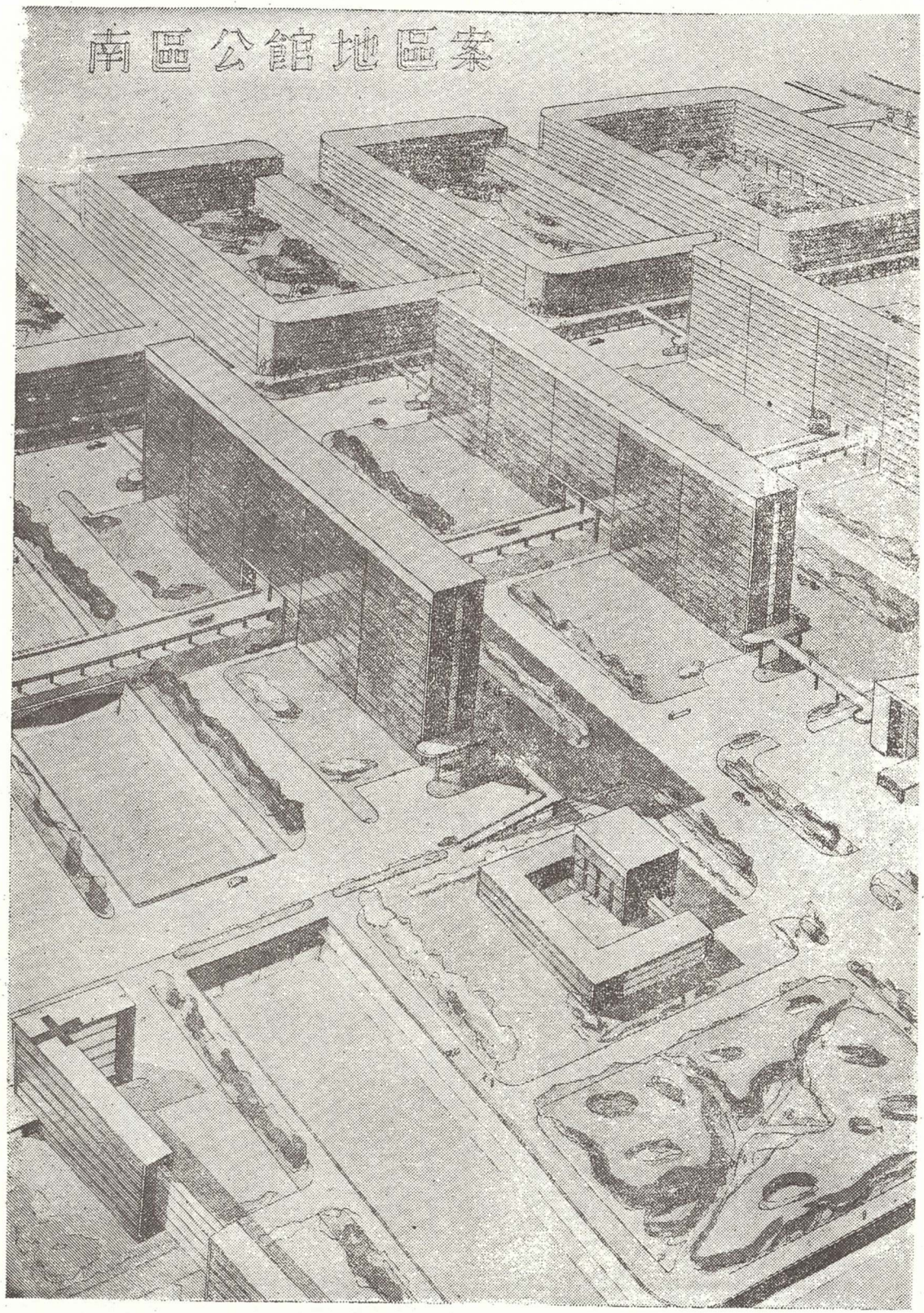
建築面積（延面積）

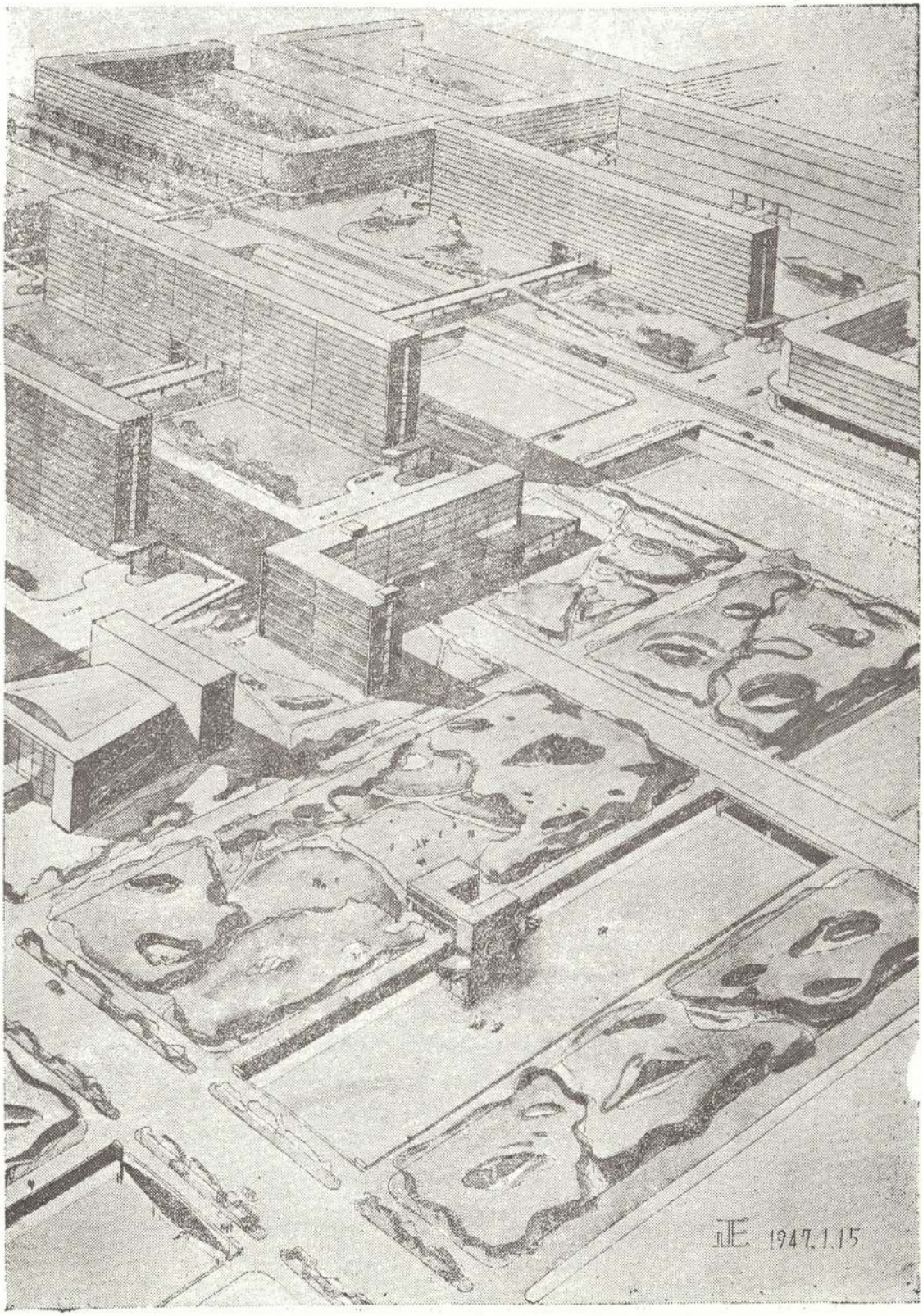
ホテル	17000m²	警察署	2400m²
公會堂	6000m²	稅務署	1200m²
區役所	2400m²	電話局	2400m²
勤勞署	1200m²	展示館	8300m²
市民館及圖書館	3600m²	保健所、產院（病棟ヲ含ム）	17000m²

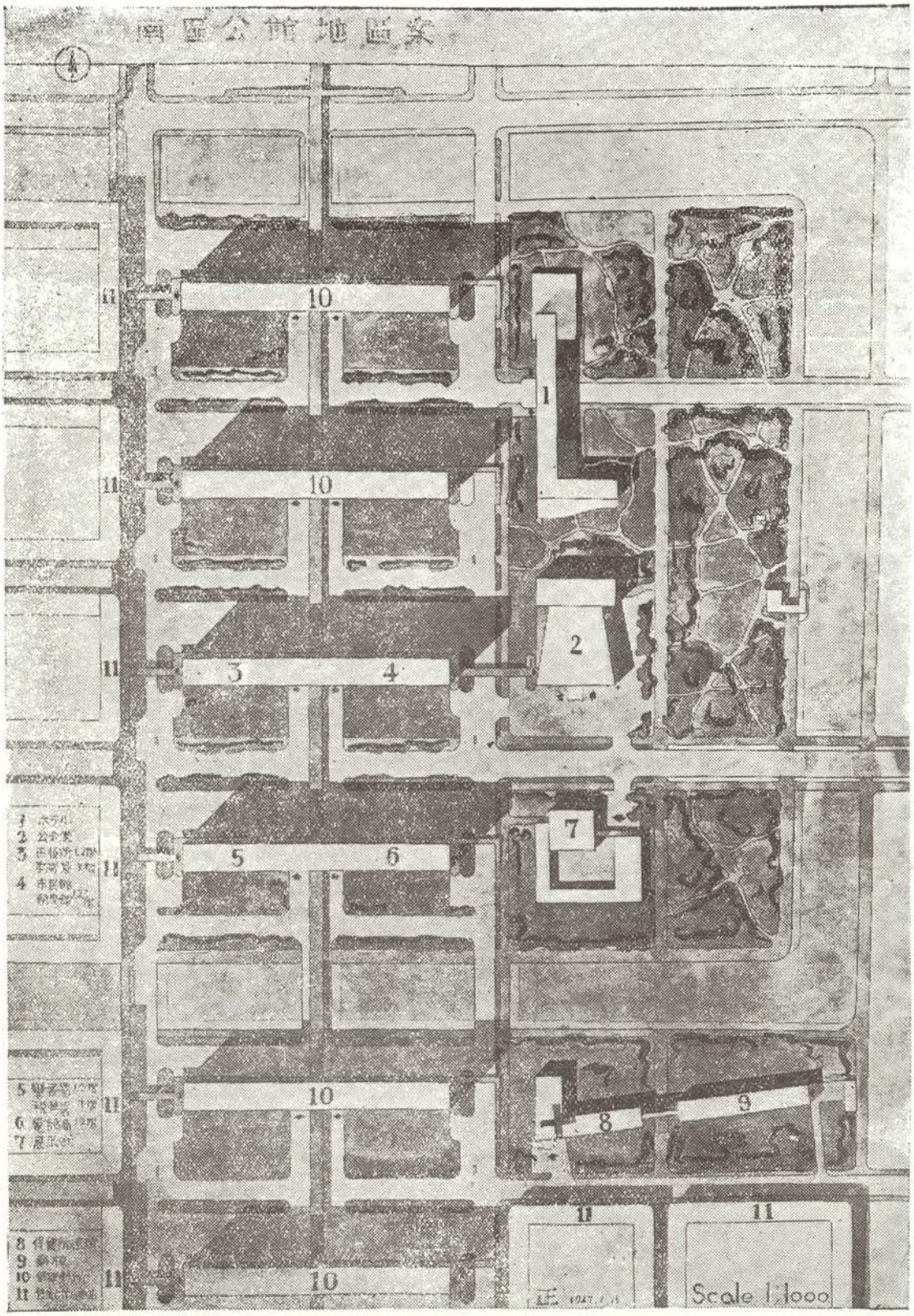
公館地區面積、高層オフイス・ビル中に含まれる故不定

綠地面積 70000m²

大阪市南區公館地區復興設計當選圖案　入選　石原正雄




1947.1.15



1. ホテル
2. 公會堂
3. 區役所1.2階 勸勞署 3階
4. 市民館及圖書館 1. 2. 3. 階
5. 警察署1.2階稅務署3階
6. 電話局1. 2階
7. 展示館
8. 保健所並産院
9. 病院
10. 貸事務所
11. 住宅(上階)付商店

公館地區懸賞圖案・審査所感

審査員　瀧　澤　眞　弓

方　針

新日本、新大阪の建設のためには、問題は今日でなく明日にある。明日のことは希望・野心・理想等々の可能性であり、極言すれば美しい夢である。夢は言わば天來だ。そういう天來の夢を、言いかえれば天才的空想を、如何にして明日への約束とするか。審査判定の困難は、單に美しいと觀照することにあるのではなく、その實現の可能性如何にかかつている。ヒポクラテスは「生命は短く、學藝は長い」をいつた語につづけて「試には惑多く、判斷は難い」と教えている。

安全で確實なことは今日だ。或はむしろ昨日以前のことでなければならぬ。それは試驗ずみの事柄であり、判斷もまた一定の規準に從い得る。其所には完成と安心がある。しかし、同時にそれは固定と慣習の世界だ。結局一種の老境である。がここにクラーク博士の "Young men! Be ambitious." という語を思いうかべよう。これが老先生の言葉だつたということを。

希望と完全と合致したものはあり得よう。が、それは理論としてであつて、事實は、希望は不安と結合し完成は固定と結合する。そこで、ギリギリのところ、兩者のいずれをとろうかとなると、止むなくんば私は不安をおかしても希望をとりたい。これが結局、審査の方針であり、從つてまた判定の標準であつた。

ここで、私事にわたつて相すまぬが、私は先頃の「建築雜誌」に一文を寄せて「空中に樓閣をえがく」と題したが、それは端的に「空中に廊下を架ける」ことだとした。ところが此度の圖案の中に、空中に廊下を架けた實例の多くに接していささか類まけの形だつた。

審査に當つての態度は抽象的には大要以上の如くだ。この方針で進み、その結果が成績判定として具體化されたまでだ。從つて上述のことは圖案全般にわたつての概評ともなるわけだ。が、なお念のため次に圖案に對する各評を、自分のメモに忠實に——敢て、にくまれぐちまでも——述べてみよう。

寸　評

〔南區の部〕（正）について

地域と建物とを統一ある體系にまとめている點を推す。夢もせめてこの程度までは實現させたい。が果して何時のことか。ある人問うて曰く「こういう總ガラス張りの建物など實現の見込があるか」と。答えて曰く「圖面は却つてラクだから設計ならば今日中にでも、ただし實現をお急ぎならばソビエトあたりへ……」。

〔天王寺區の部〕（卯）について

豊富な學說と異常な努力との上になる特色ある作品だ。しかし、その內容を盛るためには、あの地域は狹すぎた。その上に精力的な製圖力が却つて不統一とも見えるような密度を招來している。スピリツト・オン　パレードは今や盃にあふれている——

佳作審査評　佳作圖面發表ハ紙面ノ都合上割愛機ヲ見テ揭載スル豫定

（晶）について

モダンでスマートで實現の可能性も十分といふ見込だ。が　ともするとこれは戰前すでにドイツあたりの何所かの町に實現しているのではないかというような錯覺が起りそうだ。雲の模樣もドイツ風かなどいう人がある。因みに附記する——消防署前の塔のある自動車庫の位置が、平面圖と透視圖とでは少しくいちがつている。

（發）について

地勢が生きていない。習作の陳列。モダンのようで實はマンネリズムだ。いつたい日本は、今第何等國だつたか——

（冠）について

どうも複雜怪奇だ。私はふと、バン根サク節にあわずんば、という漢土の語を思い出した。さて敷地は上海あたりか、だが今時高射砲陣地でもあるまいが、と言つた感じのデザインだ。

（剛）について

この程度のことならば、既に實現していたとて驚くに當らぬ。戰前の注文で出來ていた意匠——あるいはむしろ衣裳——が戰爭で暫く疎開。最近再び取り寄せてみると、結構上等、否常套として通用するという感じだ。

（正）について

新しいつもりかも知れぬが、統一がなくて全體が何となくガサついている。試作の模型をあれこれと並べて眺めていると、いつた感じだ。

（花）について

プランを見ると建物の軸が互に少しヅレているが、どういう方針か不審である。この「空中」に架けた道路の床は、この廣さでは、たゞその下に餘計な「中空」をこしらえたにすぎない。それに總ガラス張りの建物もどんなものか。氣候の變調で花も時には狂い咲くという感じだ。

都市復興論文

豫て本會が大阪市復興の一助を目的として大阪府市朝日新聞社後援の下に懸賞募集した準入選二篇を掲載する審査の經過並概評等(前號參照)

明日の都市復興

準入選者　伊藤甫

1 序文——煤煙

私は此の論文によつて、復興せられる將來の都市に新奇なものを提案し或は主調し、又或はそれを期待するものではなく、むしろ至極平凡な都市を想定し、從來の都市計畫を對象として之を理論づけ、或は批判し修正して結局は之を擁護しておる樣な立場をもつものである。

又、私の能力に應する如く、論旨は一貫したものでなく甚だ斷片的な小論、小研究を繼ぎあわせたといふだけのもので、或は表題にはそぐわぬ　一參考資料に過ぎぬ程度の表現しか出來ぬかも知れない。

更に又、此の論文中に取扱ふものは都市計畫の理論、都市の科學といつた內容を持つものであり、從つて近畿に拘らず、神戸大阪の名稱が文中に散見するとてそれは一例とするに止まる體のものであろう。例へば、煤煙は大阪の表徵の如くではあるが、大阪のみのものでなく、工業のいん振に伴ふものであることは今更言ふまでもないであろう。此の煤煙を觀察するのに、煙突から飛び立つたその粉粒は風によつて飛散するが、どこまでも一度に飛ぶものでなく、一應風下のどこか、地上或は屋根上などに落ちたものが再三再四風によつて移動し、非常な遠距離にまで散布することになるのである。

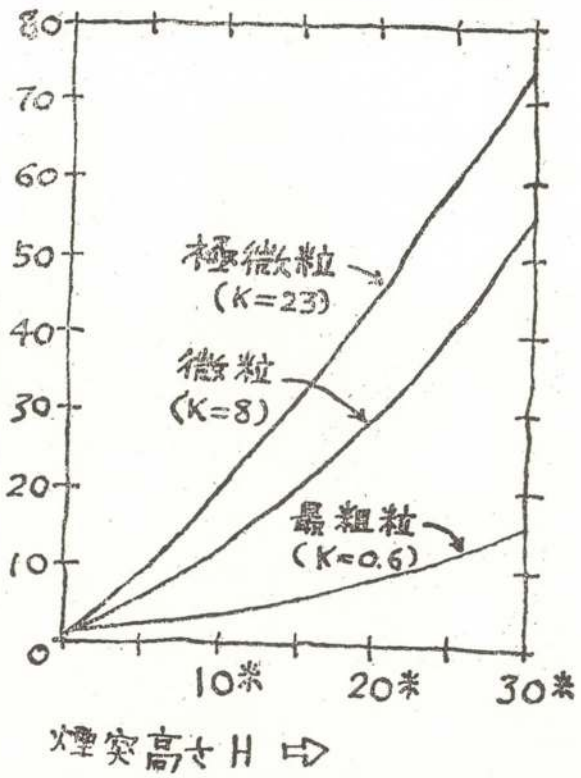
そこで、一度に煤の落ちつく距離を理論的に求めて見ると、風が水平にのみ吹くと假定する、と煙突の高さ、地上風速、煤の粒子の間の關係式が次の樣に組立てられるのである。

$$S = \frac{V_1 H^{\alpha+1}}{\alpha+1}\sqrt{\frac{K}{g}\left(1-e^{-2KH}\right)}$$

但し　S—煤の飛散限界
H —煙突の高さ
V_1—地上風速
α —高さと風速との關する常數で、1/4.5といふ値
g —重力の加速度
k —煤の浮遊力に關する常數

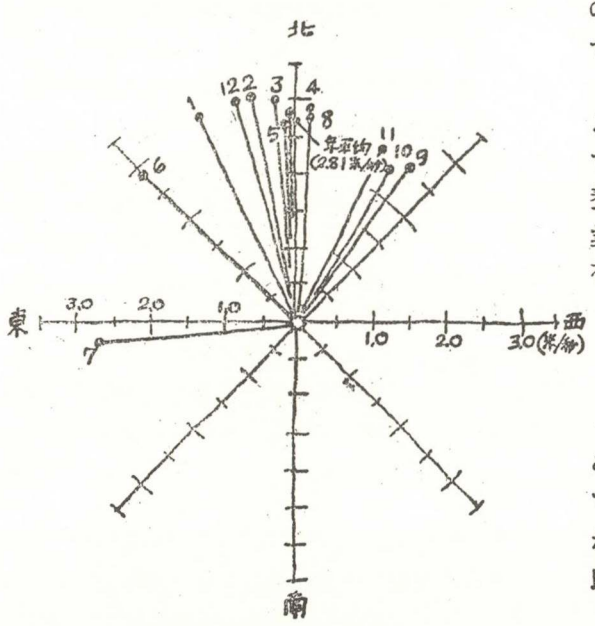
ところが之等の數値のうちで、kだけは未だ調べられた例のない數値であるので、之を簡單な實驗をやつて測定をして見た結果、粒子の最も大きなもので0.6から粒子の小さくなるに從つてkが大

第1圖　煙突の高さと飛散限界



きくなり、花粉様の極微粒のものが23といふ値がえられ、それ以上微粒のものは空氣中に霧散消去してしまうので、地上に沈降して來るもののうちではkが23といふものは先づまづ最大のものと認められた。こういうkの値によつて計算をしてみると第1圖の結果になり、煙突の高さが30米のとき煤の飛散限界というものは地上風速の76倍ということを知ることが出來る。

そこで、「煤煙の都」大阪の風をしらべて見ると、その風向、風速の各月別畢年平均は第2圖に示す通りで、一年間の平均は風向略々北、秒速は3米である。從つて前記の煤と風速との關係は、煙突が30米の高さの場合煤の飛散範圍は風速の1^6倍から76倍であるから略々50米から230米の範圍という計算になるわけである。つまり、煙突から



第2圖　大阪の月別平均風向風速

50米乃至230米の範圍に最も多く煤が降る。しかし、時たま20米の風速の日などは、遠くは1粁半にも飛ぶといふことができる。

さて、それでは都市計畫的にはどう之を解決しうるかといふと、一旦沈降した煤を吸收或は定着させて再び舞ひ昇り移動することを防ぐには、出來ればその沈降の範圍を水面か綠地にすることであろう。然し、工業地帶という一群を扱ふ以上、煙突群として考へねばならぬから、實際上は地帶の風下の230米以上のところに水面、綠地を帶狀に配することは煤がそれ等より風下に移動することを防止し得て、都市を清淨に保つことが出來るであろうと考へられるのである。

勿論、煤煙の防止は、工業の電化や少くも燃燒裝置の改良が根本策ではあろうが、明日の都市復興は次章に述べる様に、その速度と質が要求せられ、極小な土地を如何に合理的能率的に利用し而も都市生活の安寧秩序を充分に保つことが出來るかの問題にかゝつており、この様に都市計畫の面でも從來の様に單なる外見上乃至は經濟的な觀念にのみよることなく、科學的な考究がなければならぬと思う。

2　都市の人口吸引力

都市が人口を吸引する事實は今更論をまたぬものであるが、私はその引力のメーターを考へるのである。而してその國土計畫的な効用を述べる。

既往に於ける都市人口は概ね、その工業地帶によつて吸引せられたといふも過言でなく、今後とても都市はその工業地帶によつて人口を吸引し、養つてゆかねばならない。新たに地方に相當に工業地帶を造成するのが理想であるとしても尙、既存の都市工業地帶は有利であつて吸引力が大きく、又工業立地や交通運輸などの經濟上からも先づ、之を生かしていくのが得策に相違ない。つまり實績をいかしていくのである。

では、工業地帶の人口吸引力とは何程のものであるか。引力のメーターを考へるのである。そこで私は、次の様な算定によつて、その地帶の面積が都市人口の一人を吸引する能力であるとする。即ち

1.　工業地帶が工場のみが存在して他の業態のものが混在せず、從業員はこの地帶外に居住するものとする。

2.　商店は直接生活に必要のもののみがこの都市にはいつて來る。從つて商店面積の總和は都市人口に比例するものとする。

3.　都市生活に必要の限度で交通業、公務自由業、その他の有業者がはいつて來る。從つて、之等の從業者數も都市人口に比例するものとする。

と假定して一つの關係式を組立てる。

$$A = \alpha N$$

$$\alpha = \frac{f}{\theta}\left\{\frac{1}{\delta} - \left(\frac{1}{S} + P\right)\right\}$$

但し　A—工業地帯の面積
N—吸引人口
α—一人口一人を吸引する面積
f—工業従業員一人當り面積
θ—河川、水路、道路、公園、鐵道用地等を除いた眞に工場の敷地として利用せられる面積の全地帯面積に對する割合
δ—全人口に對する有業者人口の割合
1—商店面積の全人口に對する比例常數、即ち人口一人當り商店面積
S—商店1戸當り建築面積
P—交通業、公務自由業者の全人口に對する比例常數

そこで、之等の數値を次の様に定めてαを算出してみた結果、工業地帯が工場によつて專用せられるものならば、その面積27平方米につき人口一人といふことが知れた。これを私は工業地帯の人口吸引力の物差しと考へたわけである。

θ—その工業地帯の土地について夫々條件が違ふが、概數としては0.65

δ—2とする。驗しに大阪府統計書をみれば大阪市昭和5年度の調査が約2.1とある。將來は女子も働くから多少數値を大きくして置かねばならない。

$\frac{1}{S}$—商店と人口との關係については、人口一人當り商店間口として0.5尺(0.15米)といふ説、戸數として10戸に對して商店1戸といふ説などがある。こゝでは後者により、1戸當り平均人口を4人として算出すると0.023といふ値になる。

P—30%とする説をとる。驗しに大阪市の昭和5年職業別人口統計書では34%であるが、大阪市の貿易港としての性格を考へると、30%は妥當の數値と思ふ。

f—之は工業地帯の晝間人口密度であるからその地帯に存在する工場の規模や建蔽率制限や、從業員數によつて算定すべきであらうが、概數としては、建蔽率制限を四割とした場合1人當り100平方米（ヘクタール當り人口密度100人）と見てよかろう。(但し1人當り建築面積を30平方米程度に見てゐるのであつて、昭和13年に於て堺市で行つた工場調査では、工業地域適格工場の建築面積は職工1人當り24平方米である。)

扨、以上の様に求めた27平方米といふ單位は工業地帯を純粋と見た場合であるが、實際には相當他の用途のものが混入するので、

地帯種別	工場の占有率（%）	都市人口吸引單位（平方米）
工業專用	100	27
普通工業	70	38
未指定（又は輕工業）	50	54

と考へることができる。つまり、工業地帯と一口に言つてゐるものを三階級に分け、夫々の人口吸引力のメートルの目盛を求め得たわけである。

併し、工業地帯の人口吸引力を即ち都市の人口吸引力と見ていゝかはなほ疑問が殘つてゐる。神戸、大阪の様に港灣を持つてゐるものでは、港灣にも亦人口が吸引せられることは明らかである。そこで、同樣の考へ方で港灣の人口吸引力を調べると、關係式は次の様に組立てられた。

$$J_1 = \beta N$$

$$\beta = \frac{\omega}{W}\left\{\frac{1}{\delta} - \left(\frac{1}{S} + P\right)\right\}$$

但し　L—港灣岸壁の延長
N—吸引人口
δ—人口一人を吸引する岸壁延長
ω—荷役從事者一人當り一日平均荷役能力で4噸とせられる
W—岸壁延長1米當り1日平均積卸量で、3噸とせられる
S、L　δ、P—前述のものに同じ

之を前と同樣計算を行ふとβは0.24米と求められる。つまり、港灣岸壁が人口を吸引すると考へられそのメートルの目盛は岸壁延長として24センチが單位となるわけであるが、試みに大阪の有効な岸壁が10粁の延長を數へれば約4萬といふ都市人口を之によつて吸引して居ることになる。が、この數字からみれば港灣の吸引力は工業地帯のそれに比較すると問題にならぬものであつて、都市人口を代表するものはやはり工業といふことになろう。

戰時中の戰歿、罹災による死亡と、終戰後の復員歸還、海外引揚者の流入によつて、今我國の人口の上に非常な變動が生じ、從つて從來の統計に

よる自然増加率的推定が無意味のものとなつてしまつたので、經濟安定本部では、昭和21年度の人口調査にもとづき種々の科學的な檢討を重ねた結果として、昨年の8月に昭和25年迄の人口推定を發表した。それによると、昭和25年の人口は7.919.6萬となるのである。

そこで、昭和25年以後、出生死亡が一應正常の狀態に落付いて一定率の自然増加をするとして（事實は我國の人口増加は戰前既に下降狀態にあり、英國などと同じ運命をたどるものとの見界が多い）50年後を推定して見るのに、その増加率を經濟安定本部推定の昭和25年度の1.000人につき7.4人といふ値を採つて見ると昭和70年で10.955萬の人口を擁する計算になる。

この人口を食糧自給の面から考察すると、現在既に自給不能であるのは勿論であるが、今後も農耕地面積の増加は微々たるものであろうから、この50年後の人口を完全に養ふ食糧は、相當量を海外に仰がねばならぬことも亦言をまつまい。現在我か國土の農耕地は、1.800萬ヘクタールとされるが、戰前の人口1人當り所要農耕地面積は850坪としたので、この割合からは、即ち國民の食糧事情が戰前の量にまで恢復するためには、我が國土の自給食糧は人口6.350萬を養ふのがせいぜいであるといへる。よし耕地に一割の増加をみたとしても7.000萬を養ふことか出來るに過ぎない。徹底的に耕地の造成をやるか。即ち、山をならし、海面を埋立てるか。之は言ふべくしてなし得ることではなさそうである。ではその他に增收の方法でもあるか。これ又劃期的なもののない限り5割に近い增收をうることはむつかしいものと思ふ。

こう觀じきたるとき、やはり食糧の補給は海外に仰ぐに如かず、それには相當の見返物資が必要である。我が國土には周知の樣に之に當てるべき資源は皆無といつてよく、結局、戰前もそうであつた以上に工業製品によるの他に途はない。よくこの方法をイギリス國にならうといふ人があるが、實は完全に違うのであつて、我國の工業製品といふものは、生糸及絹織物、木工品、陶磁器類などはよしとして、他は殆んど全く主要原料を輸入して之を工業的に加工するいはゞ加工の技術と勞力を販るものなのである。（陶器などにしても良質の抽藥は輸入していた）從つて原料に對しても之の見返りをしなければならず、又その製品の貿易の販路もイギリス國の樣に易々たるものでなく、まことに困難な競爭場裡なのである。あらゆる條件が戰前とは問題にならぬわるいものであることを覺悟せねばなるまい。併し、困難なこの途のみが殘されたものであつて、飽くまでも我國の將來は工業立國に相違ないのである。

一方農業は何程の人口をもつて生產を續けることができるかといふと、可耕面積、戰前に於ける經營上の必要面積から農業者1人當り農耕地面積は1.000坪とせられるから、我國全農耕地については人口5.445萬を必要とするわけで、將來1割の面積增加を見込んでも6.000萬となり、總人口からそれを除く4.000萬以上のものが農業以外の生產、特に工業への配置につかねばならない。從つて之等の大部分が都市に收容せられねばならぬことになる。今日、失業、罹災、引揚などによる所謂浮遊的人口を速かに定着させて、能率よく生產に從事させ、將來增加する前述の樣な人口を收容して健全な新日本を建設してゆくことは、一つに都市復興の速度とそしてその質にかゝつてゐるといふも過言ではないと思ふ。

そこで、都市の工業地帶の復興が重要な役割を演する。我國の工業地帶は244.463.240坪の普通工業と49.859.014坪の未指定とがある。そのうち近畿ブロツクでは59.647.812坪の普通工業、16.613.845坪の未指定が分布してをり、前者は全國の2割、後者は3割を占めてゐる。前記のメーターによつてその人口を吸引し養つて行く能力を測つて見れば、全國で5.167人であり、近畿ではその略々2割6分の1.317萬となり、充分將來の過剩人口を吸收して新日本の原動力たらしめることも可能なわけである。

因に、大阪の工業地帶はそのうち609萬を受持つ能力があることを附言しなければならない。

3 生 活 圈

工業地帶の人口吸引力は實際には、單なる面積だけで測ることはできないかも知れぬ。都市といふ條件や實績に於て確かに吸引力の勝るものがあると信ぜられるが、なほ工業地帶の質や種々の環境的な條件による甲乙のあることは勿論であるから、都市としてはなほ分充交通運輸、水利などの

諸施設に改良をなすと共に、地帶内の純化、つまり工業以外のものを排除して、提供せられる工業のための便宜や諸施設を經濟的に能率的に活用しうる様に計ることは必要であらう。

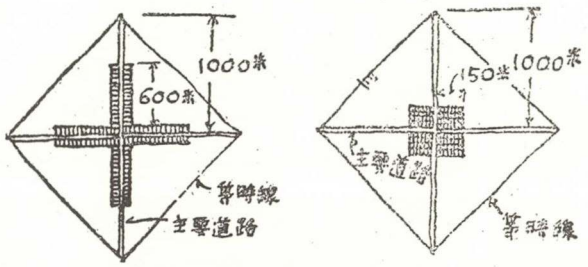
ところで、扨工業地帶の吸引力が發揮されてもその人口を包容する都市にその能力があるであらうか。能率のよい生産と、無驗のない生活の所場でありえようか、が問題である。喧噪、不潔が、交通難、住宅難等々と續々露呈する、所謂都市の欠陷が、都市の膨脹と共に愈々ひどくなるのでは工業地帶の人口吸引に即應して人口吸收ができないと思ふ。

そこで私は大都市を截つてみる。都市は生きものだといふ。確かに都市の複雜な有機的な組織は、都市を生物と對比して觀察することの明快さ、表現することの便宜さを與へるものである。大都市になる程その感は深い。從つて私は醫學に生理學や組織學がある様に、都市に都市生態學とでも名付けようか、そういつたものがあつてよいと思ふ。そこに都市計畫に於ける都市の諸種の欠陷に對する方法が、臨床學に於けるそれの様に生まれ、豫防醫學に於けるそれの様に確立されるに違ひない。

先づ、都市の構成組織をみる。二大別して勤務地帶と居住地帶とに分けられる。大阪に就いて言へば、勤務地帶は船場島之内一帶の業務中心地帶や、此花區、港區、大正區などの臨港地帶の工業地帶がそれであるが、之を略々中心として居住地帶が取まいてゐる。居住地帶は細胞に似た組織になつてゐるものであつて、その一細胞に相當するものを我々は生活圈と名付けてゐる。言はゞ單位小都市であつて、人口は5萬の程度で商業的小中心を持つてゐる。細胞が核を持つてゐるのに酷似してをる。大阪では、上六とか阿部野とかいつた地方的な商業地は皆此の細胞の核であるのである。

私は今、理論的にその生活圈の模型を描いて見ると第3圖の通りである。即ち、道路の交叉點とか交通機關の停留所とか交通上の要點を中心とし、步速にして15分程度距離にして1—1.5粁の所謂等時線がその外緣であると思はれる。第3圖の模型では1粁としてをり、この場合次の諸條件をもつて計算すると、即ち

第3圖　生活圈模型圖



1. 道路、公園などの非利用土地を40%とする
2. 宅地面積は1戸當り50坪(170平方米)とする
3. 1戸當り家族數4人とする
4. 商店間口は生活圈の人口1人當り0.5尺(0.15米)とする

とすると、生活圈の人口は 2.8 萬、商業地域は路線地域のとき（上左圖）交叉點から延長 600 米づゝとつた各道路の兩側、集團地域のとき(上右圖)方形の一邊300米となるのである。

居住地帶はこの生活圈の集合體であるが、生活圈相互には交通機關や道路によつて結合してをるのみで、他の生活上の關係は殆んどないと言つていゝ。消費生活の上では夫々獨立してゐるのである。生活圈は結局夫々が勤務地帶と密接に結びついてゐるのであつて、それを道路や交通機關が紐の役割をしてゐるのである。或は又こう表現をしてもよい。交通機關が細胞に對する毛細血管の役割をしてゐると。

4 等時三角形

都市交通機關は都市の血管である。そして都市を支配してゐるものが都市交通機關であるとも言へる。都市の大さ、都市の形態、ひいては都市の人口包容力を支配するのである。

それでは、如何にその支配力を及ぼすかが問題である。私は生活圈に於けると同樣に、その等時線を考へる。即ち、交通機關による等時線は自宅から交通機關の停留所迄の徒步時間と、停留所から目的地の停留所迄の交通機關の走行時間、目的地の停留所から目的地迄の徒步時間の三段となるわけであるが、周知の如く交通機關は概ね勤務地帶に集中してゐるので、一應目的地の停留所から目的地迄の徒步時間を無視して考察してみる。即ち、等時線上の一點から目的地の停留所迄の時間

を一定だとするなら、次の關係式が組立てられる。

$$\frac{y}{v}+\frac{x}{V}=T$$

但し　y—等時線上の1地點から停留所迄の距離

v—步速

x—該停留所から目的地の停留所迄の距離

V—交通機關の平均速度（停留時間や發着のための減速などをも含めた平均とする。）

T—與へられる所要時間

そこで、之をx、yを變數として、その他に次の様な數値を與へて圖示すれば第4圖となる。

v—路上測定の結果通勤時の步速は1分間に90米とする。

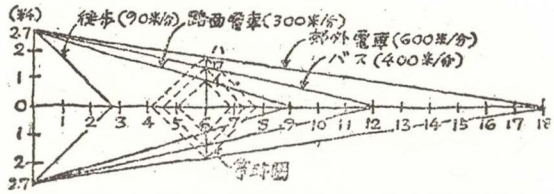
V—路面電車の場合、1分間に300米

バスの場合　　1分間に400米

郊外電車の場合、1分間に600米

T—通勤の場合は30分程度が理想であらう。之でも往復の通勤に要する時間が、勤務時間を正味8時間としてその1割3分になる。此處では30分とする。

第4圖　等時三角形の圖



圖に於て、0が目的地の停留所で、6を0から6粁離れた所にある停留所とすると、この交通機關が路面電車か、バスか、或は郊外電車かによつて停留所からイ、ロ、ハ、の距離に、夫々30分の等時線があるので、道路網が格子形だと前に生活圏のところで示した様に、圖中點線で示した等時線になるのである。そこで、このニホ9、ニホ12、ニホ18の様な三角形を私は各交通機關の等時三角形と名付けよう。この等時三角形こそ、交通機關の支配力を測るメーターであり、都市の種々の問題の一つの鍵ではないかとさへ思ふ。

例へば生活圏は都市内交通機關の路線に沿つて描かれる等時三角形の中に形成せられ、都市の大きさはその等時三角形の尖端を限度とする。都市交通機關が都市郊外に擴張せられて、等時三角形の尖端が突出すれば、等時三角形の形に從つて都市の成長を見る。或る人は之を「ヒトデ形」の成長とした、又例へば郊外電車が郊外の開發を屢々するが、その郊外都市は郊外電車の等時三角形の範圍に於て發展をすると考へてよい様である。或は又地價や家賃、物價に至る迄、等時三角形によつて解釋できるものが多いと思ふ。

5 都市斷面

都市の様相は建物の様相である。そして建物の様相は又その敷地の地價を反映してゐるといふ事實に私は着目する。即ち、大阪に於ける船場あたりの様に、高層建築物のしつぴする土地は往々にして地價の高いところである。そこで、建物の高さ、つまり階數と地價との關係を貸事務所やアパートの經營に對する採算上から考察してみよう。

即ち、土地賃貸價格は實際の地代、家屋賃貸價格が家賃に一致するものとして、次の如き關係式を組立てることができる。

$$N=\frac{Y}{\alpha}\cdot\frac{1+l}{Z(1-k-j)-CX}$$

$$C=\frac{1-\gamma^m}{m-\gamma\frac{1-\gamma^m}{1-\gamma^m}}\fallingdotseq\frac{1}{m-\frac{\gamma}{1-\gamma}}$$

但し　N—階數

Y—敷地の坪當り賃貸價格（年額）

α—建蔽率（敷地面積に對する建築面積の割合）

l—土地稅率

k—建物稅率

Z—家屋坪當り賃貸價格（年額）

j—家賃に對する管理費の割合

X—坪當り建築費

γ—年利率

m—資金償却年數

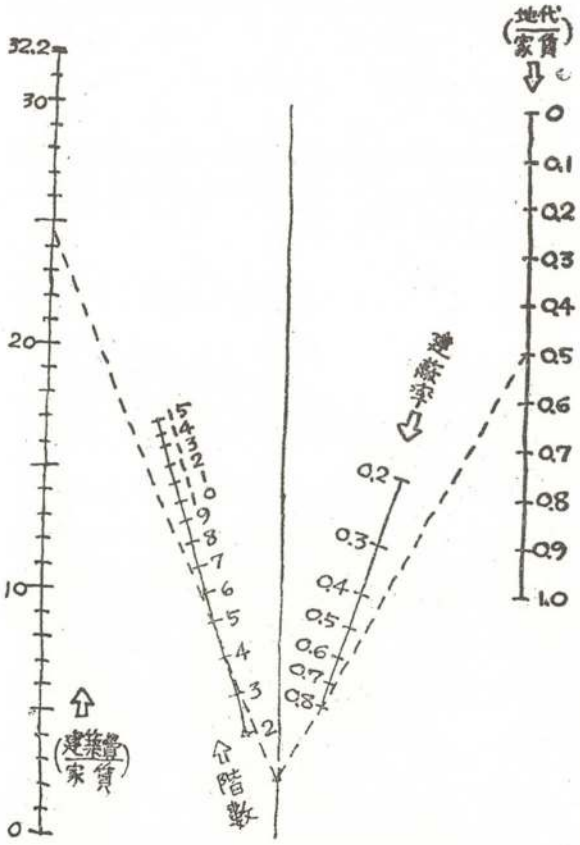
この式が表現してゐるところでは、建物の階數は他の條件を同じとするとき、土地の賃貸價格從つて地價に比例してをり、又建蔽率に反比例することも明瞭である。

試みに、土地家屋の各稅率を大阪市内の場合に

あてはめて見ると第5圖の圖表を得る。參考のため此の圖表の使ひ方を說明してをこう。例へば地代200圓（坪當り年額）、建築費10.000圓（坪當り）、家賃400圓（坪當り年額）、建蔽率0.8とすると、先づ地代を家賃で除した値0.5を算出し、圖中のその目盛と建蔽率の目盛の0,8とを結びこの延長の中央の線との交點を求め、次に建築費を家賃で除した値25をその目盛にとつて之と前に求めた交點とを結べば、圖中に破線で示した樣にして階數4なることを知ることが出來るのである。

ところで大阪の一斷面に表れる各區に於ける現行の土地賃貸價格の平均が第6圖に示される通り

第5圖　採算上の最少限階數を見出す計算圖表
（坪當單價を使ふ）



であるが、此の圖は又各區の建築物の採算上の高さを表しているのである。即ち、東區を八階建とすれば南區では五階、北區では三階といふ風であそ。

併し、此處で注意を促したいことは、地價によつて建物階數を採算上から考察したが、又建物の階數によつて地價が動かされる場合も多いのであつて、建物階數と地價との關係は相對的なものであるといふことである。又前記の樣に建物の高さ

第6圖　大阪市の一斷面に於ける土地賃貸價格圖
（單位圓）



が建蔽率に反比例するので、建蔽率は地價と同じ樣な效果を及ぼす。建蔽率は人爲的なものであるから、間接的ではあるが人爲的に、地價を動かす方法の一つであろう。

6 通行密度

都市の呼吸はラツシユアワーであろうか。朝に來り、夕に歸つて行くその波は呼吸であり、脈動とも見られる。その波は人口密度の波でもある。つまり住居地帶を考へると、日中は人間がぐんと減つてしまふ。皆が勤めに出てしまふからである。それが夕方から朝迄は又ぐんと增える。人口の大部分がこの地帶にはいつてしまうわけである。それに反して勤務地帶では日中は非常な密度であるが、夜になると場所によつては殆んど人氣のない樣な所もできて來る。ビルデインダ街や重工業地帶などがそれである。こういふ人口密度の增減が、毎日潮の滿干の樣に週期的に繰返へされてゐるのである。

ところが他面、道路や交通機關はその都度極度の能率を發揮せねばならない。極端に言ふなら、ラツシユアワーに於ける道路や交通機關の能率こそ都市の能率であると思ふ。

ラツシユアワーに於ける道路や交通機關を我々の身體に於ける氣道に譬へるなら、勤務地帶は正に肺臟に相當する。そして又、吸氣と肺活量の關係を、ラツシユアワーの混雜が勤務地帶の容積に關係せられるのに當嵌めうる樣である。即ち、勤務地帶の事務所建築などの高度が、前面道路に於ける步道上の混雜さにどんな變化を生ぜしめるかについて考へてみよう。

先づ、步道上の混雜さを表はすために、通行密

度といふものを考へるのである。之は通行者が通行中に各自に占有する歩道上の面積で表はすことにした。そして歩道幅員と建物の高度と通行密度の間の關係を次の式として組立てた。

$$\alpha f = \frac{4tAvf\beta}{dl(1-\psi)\delta} \cdot \frac{bf}{h}$$

但し　αf—通行密度

t —ラツシュアワーの繼續時間、（こゝでは30分とする。）

A—勤務者一人當り床面積、從來の統計では4.1平方米とするも、こゝでは5平方米とする。）

vf—通勤時の歩速、（測定の結果より1分間に90米とする）

d —道路に面する建物の奥行、（20米とする）

l —勤務地帶長さ（電停間距離として500米とする）

ψ—通勤者の自動車利用率（通勤者の1割は自動車を利用するとする）

β—通勤者の通行方向に關する補正（1.6とする）

S —建物連擔の程度に關する補正（0.7とする）

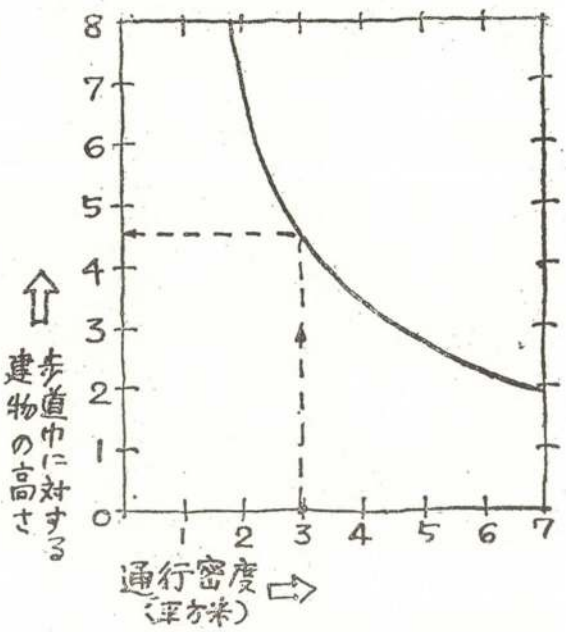
bf—歩道幅員

h —建物の高さ

以上の括弧内の數値によつて計算をすると第6圖を得られる。これによると、歩道の幅の2倍の高さを限度とすると通行密度は6.9平方米3倍とすると4.6平方米である。

さて、どの程度が通行密度が最小限であろうか。つまりそれ以上混雜では焦々して來る、堪らぬといふ限度を知る必要がある。大阪市内で種々の通行密度の採集をして見ると、御堂筋の採集では6平方米程度で、非常に餘裕があつて氣持のよい通勤振りであつた。大江橋上では混雜で、比較的にいゝと思はれたものが3平方米程度であつた。これは通勤ではないが、心齋橋の人出盛りには1平方米以下のものもあつた。大體1平方米前後である。先づそういふわけで、3平方米程度が最小限、6平方米あたりは良い方であることがわかつたわけである。即ち、3平方米では前の圖中に

第7圖　建築高度と通行密度



破線で示した様に、歩道に對して建物の高さを4.5倍程度として場合であるから、建物の高さがそれ以上に高くなつたのではラツシュアワーには歩道上が混雜に過ぎるといふことになり、徒らな都市高層論者への一つの警告となるものである。

このような理論は又自動車の利用者による車道上の混雜さに就いても成立つから、同樣の式を組立てゝ見ると、

$$\alpha_a = \frac{4tAv_a\beta}{dl\phi\delta} \cdot \frac{b_a}{h}$$

但し　αa—自動車の通行密度

va—自動車の速度

αa/va—自動車の性能、運轉技術より米秒の單位で6.8が最小値であるので之を採る

ba—片側の車道幅員

其の他の數値は徒歩通勤者の場合におなじ

となるので之を計算すると、建物高さは片側車道の2.4倍となることが解る。車道が兩側の歩道に挾まれてゐて一つある通常の道路では建物の高さは車道幅員の1.2倍が限度である。

從つて歩道と車道とがある主要街路ではその兩側の建物の高度は、歩道幅員の4.5倍と片側車道幅員の2.4倍といづれか小さい方を採用して之を

限度とすべきである。

又以上の様な通行密度に於て歩道と車道が均衡を保つためにはその幅員の比が

$$\frac{b_f}{b_a}=\frac{1-\psi}{\psi}\cdot\frac{a_f\ v_a}{a_a\ v_f}$$

でなければならないから、歩道の幅員は片側車道幅員の2.6倍なるときに合理的である。従つて従來の道路構造は歩道が車道に比して小に過ぎ、ラツシユアワーの混雑の一原因となつてゐるに相違ない。

7 閉塞型建物

都市の人口包容力を増大させるには都市を高層化せよといふ。建蔽率を強化することは建物の高層化を經済上から促す。ラツシユアワーの交通量は高層化を拒むが、道路や交通機關を立體化し、道路は二階三階の道路を附設し、交通機關を高架線に設けるなら、高層化も可能である。では肝腎の建物はどうして高層化するかが問題である。

で、從來大建築物に採用されてゐる閉塞形即ち中庭式を考へてみる。條件を先づ下の通りとする。

1. 建築物は閉塞型の平面とし、隣接敷地には全べて同高同形の建築物が連擔するものとする。
2. 隣接建物との間隔を、その建物の一階に於ける照度が必要最小限を保ち得る程度とする。
3. 中庭の南北の幅は、北側の棟の一階に冬季日照あらしめるべき最小限の程度とする。
4. 建築面積は與へられた建蔽率（建築面積の敷地面積に對する割合）を超えないものとする。

こういふ條件で高層化すると敷地はどう利用したらばよいかを考へて見ると、先づ敷地一ぱいに南北の棟を引離して日照上必要な中庭幅をとり次いで東西の棟を建蔽率に適合する様に引離す。こういふやり方でいくとどの程度まで高層化し得るか、を問題として敷地の兩邊の長さと建築物の高さとの關係の次の様に求めた。

$$D=Mh+2b$$

$$B=\frac{N}{\frac{a}{2b}M-\frac{1-a}{n}}$$

但し　D—敷地の南北邊の長さ

B—同じく東西邊の長さ

h—建物の高さ

b—建物の幅員（20米）

a—建蔽率（0.7）

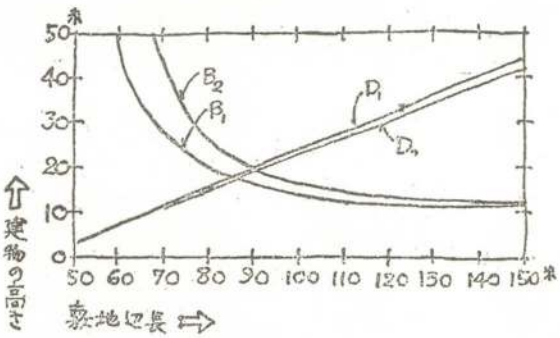
M及N—CとKに關する常數

C—日照上必要な中庭幅の建物の高さに對する割合で2.5とする。

K—隣地境界線との距離の建物の高さに對する割合で0.065とす。

この式を與へた數値によつて計算すると第7圖の通りである。敷地のあらゆる條件の場合がB_1B_2、D_1Dの夫々二曲線の間にある。これによると高さ

第8圖　敷地邊長と建物の高さ



が20米以下では南北邊が東西邊より長く、20米より高くなると東西邊が南北邊より長くなる。從つて高層化の爲には區劃割を南北に長くとる必要上主要街路を南北に多く通し、東西道路はむしろ補助的なものとすべきである。併し、敷地の經済といふ點からは、建物の高さが20米のときで、この場合は90米角である。高層化にしてもこの程度が標準であろう。勿論この場合區劃割をその儘敷地として用ひるのである。

8 ループ型高架線

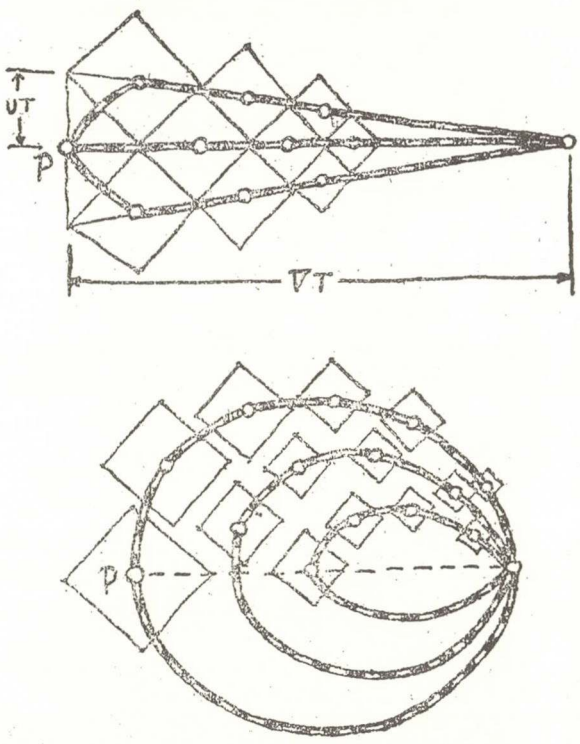
都市の死命を制するものは都市交通機關であつた。從つて交通機關をしてその機能を充分に發揮せしめるその配置の適正か否か、を問題にしなければならない。

先に、交通機關の都市支配力について論じたところの等時錐の關係から特殊な配置方法が考へられる。第8圖の上に示す様に、都市の道路網が格子型をなしてゐる場合は、徒歩の等時線は方形となるので、等時錐を重ねて行くことにより都市内

のあらゆる地點より、或る一定時間内に目的點に到達できる樣に考案することが出來るわけで、其の一例として同圖下に示すループ型の配置を擧げる。即ち、列車は大圓より中圓へそれから小圓へといふ風に、一系統で一種のじゆん環をなし、破線で示す別の一系統に乘換えることによつて、目的點P に渉徑をとることが出來るわけである。高速度高架線の一案として提示するものである。

それでは配置の合理化だけで、大都市の交通問題は解決し得るか。そうはいかない。今一系統の交通機關はその勢力圈内に何程の人口を擁するかを等時錐によつて考へて見るのに、第8圖上によつて知れる樣に、一系統を利用する範圍の面積は最大限がその等時錐の面積の半分といふことになるであろう。即ち、圈内の人口密度をγすると人口nは次の式で示される。

第9圖　交通機關配置の理論



$$n = \frac{1}{2}\gamma v V T^2$$

但し　v －通勤時の歩速（1分間90米とする）
V －交通機關の平均速度（前揭の數値を用ひる）
T －通勤に要する時間の最大限（30分とする）

そこで、γ を1ヘクタールにつき100人として交通機關各種につき計算すると

路面電車　121.500人
バ　　ス　162.000人
郊外電車　243.000人

となり、ラツシユアワーにかてその4分の1が30分間に輸送せられねばならぬとすると、各交通機關は一系統毎に夫々3萬、4萬、6萬を負擔させらることになるが、例へば路面電車1臺が200人を載せるとして150臺を要し、その車隔は12秒といふ到底不可能の數字に到達する。之を救ふ途は、同じ等時錐を幾種かの交通機關が共有をする、所謂並行線によることであり、實際も今日それがなされてゐるが、より一層の强化が必要であり、尙根本的には勤務地帶の分散と勤務者の住居の各自の勤務地帶への近接が出來れば之に越したことはない。結局この根本策こそ大都市の交通難問題を完全に解決し、大都市肯定への示標たるべきものではあるが、現實としてはやはり、言ふべくしてなし難いものではある。

9　結語—復興都市の模型

以上數章に渉る私の都市理論を綜合し、こゝに復興都市の模型を描き、その實際への應用として大阪市の場合に言及しようと思ふ。即ち、

1. 勤務地帶と住居地帶とに大別される。勤務地帶には工業地帶や商業、業務の中心地帶が含まれる。大阪市では港灣の改造整備計畫に應じ、その臨港地帶と神崎川下流沿岸地の幅500乃至1.000米の部分を專用工業地帶として特に主として重工業の立地とする。又船場、島之内の商館地帶、中之島、大阪城附近に一括される商業、業務の中心地帶を、又港區に於ける港灣、倉庫地帶を、いづれもこの勤務地帶に含めて考へるわけである。

2. 土地利用上の用途純化をする。

工業地帶にはなるべく工業以外のものがはいらぬよう、商館地帶には商業以外のものが又住居地帶には住居以外のものがいらぬよう、特に各地帶の能率、安寧、秩序を害するものを排除するのである。大阪市の場合、前記の工業專用を設ける外、

船場島之内の主要街路に沿ふ部分、1或は2街區を商業の專用として、工業に於ける海にも比ぶべき沿道の能率を極度に發揮せしめるため住商混淆をさける。公館地區なども同樣に純化する。之は都市の美觀上からも肯かれるところである。

3. 道路の主要なものは概ね2－3粁間隔として、東西、南北の格子型に配置するが、時により、あまりに單調な直線道路をさけることが必要である。又目的に應じ交通と運輸或は遊歩と用途上の分離をする。

4. 特に高層化の必要ある區域では、主要街路を南北に通じ、區劃割に考慮をする。

5. 勤務地帶に近接して、集約的な住居の地帶を設ける。即ち勤務者の住居の近接化を計るもので、大阪市に於ては、前記の各專用地帶に圍まれ或は隣接する部分に共同住宅地區長屋地區を設ける。特に前者は5階程度迄高層化することによつて集約的土地利用を期すのである。

6. 商業地帶の建物の高さは20米を標準とするが、中心街では一部、前面道路幅員の8割程度迄高層化する。尙高層化の必要があるところでは、2階道路とし、上階を歩道、下階を車道とし、その道路幅に應じて高層化する。

7. 工業地帶は幅500乃至1.000米とし、都市の風上に在る場合は地帶の風下に適當幅員の綠地帶を設ける。

8. 住居地帶はそれと勤務地帶とを結ぶ交通機關の等時錐を以て構成される。ループ型高架線が設けられる。大阪市とすれば、外圓は西淀川、此花、港、大正各區の略々中央の主要道路交叉點を通り、內圓は船場島之內の商業地帶の西よりを通る二重のもの、その交點は大阪城の東とする一案がある。

9 住居地帶は別に、1乃至1.5粁の徑の生活圈を以て構成される。生活圈の核は生活圈面積の15分の1とする。大阪市に於ては略々30個を數へる。

10. 郊外線の端末地點の生活圈核は地方中心を形成する。その面積は一般生活圈核の8倍とする。

11. 工業地帶の都市人口吸引力はその地帶面積27平方米（工業占有率100％の場合）に1人を基準として求められ、それに對しその都市の人口包容力を算定し、それと之との差を衛星都市に分擔させる人口とする。大阪市の工業地帶は600萬を吸引する能力があると見られ、之に對する都市包容力は250萬を充たぬ。殘りの350萬は大阪市の膨脹、衛星都市の形成によらねばならない。

12. 外延交通機關は衛星都市を形成し、大都市の勤務地帶よりの等時錐の範圍に其の大都市の包容力が擴大せられる。1線について9萬を限度と考へられる。（等時錐の計算では24萬を限度としたが1列車3輛連結として600人を載せ、車隔を5分とした輸送量より、推定した。）大阪市に於ては350萬の包容力を擴大しようとすれば39本の外延交通機關が必要であろう。現在の約3倍の强化である。

13. 公園を各所に設置するが、4本の主要道路に圍まれる部分、つまり前記格子型の目に當る方形の部分を1校區とし、この校區毎に1箇の小公園を置く。又都心部に美觀或は記念的廣場を數箇所設けて、都市美と市民の慰樂の用に供せられる。之等は特に大阪の將來としては甚だ必要なものと思ふ。公園は今日旣に指定を見たものは、大阪城に隣接する部分約22萬坪の大公園を初め20箇所あまりがある。

扨、本論を結ぶにあたり、私の感するところは、本論が明日の都市復興の前提として　都市が工業の技術と勞力の量の吸收によつて再建し、發展をするとしたが、それ等の質については忘却の態度をとつて來た。ところが結局之が殘された問題である。都市に於て何をつくるか。如何に良質のものを、如何に廉價につくるか。之が販路を決定し、擴大し、工業の發展、都市の人口吸收といふ順に本論の筋に乘つて來るわけである。再建途上とは言ひ乍ら今日の混沌たる經濟狀態、國民生活の事情の中からは、そういふ何物をも摑み得ない、言はゞ龍を畫いてその靑を入れ得ぬ憾みである。從つて、本論が都市計畫の一理論、都市の科學の一齣といつた抽象の世界の一べつをでも表現し得たとしたら、まことに幸ひであつてそれ以上を望むものではない。

尙、本論中の數字を、引いては本論自體を暗々のうちに支配してゐるものに建蔽率といふ土地利用制限があることに注意されねばならぬ。その建蔽率は敷地に對する建物の面積の割合で、本論に於て想定してをるところは左の通りである。

商業地帶中特に專用的なところ　7割
工業地帶特に專用的なところ　4割
住居地帶中の普通のところ　3割

（完）

都市復興論文 2・

都市復興の理念と構想

特に地域制の立體的複層化と環境の整備とについて

準入選者 新田伸三

1 都市復興の理念

いま新しく民主主義の世界の中にふみ出した我々は、自由と平等の民主社會建設の輝しい出發點に立つてゐるのであつて、明日の文化國家への期待は現下の混沌たる祖國の現實によつて何等消滅するものではない。10年に及ぶ歷史の動亂の結果日本國民に最後に與へられた鐵鎚の激しさは、今我々がしみじみと體驗しつゝあるところであり、そして荒寥たる廢墟と化した街をうらぶれて彷徨する、苦惱と悲しみに充ちた日本人敗余の姿にはつきりと刻まれてはゐるけれども、神から與へられた敗戰といふ痛棒によつて覺醒させられたその精神の基底には、新生への胎動が高鳴り、恒久的平和國家創建への強き意志が底流してゐるのを見逃すこと出來ないのである。

さてこの誤れる戰爭の償ひとして日本民族が國際社會の純良なる協力的成員となり、世界の平和と人類文化向上に寄與せねばならぬといふ世界に對する責務を果すために、日本人として如何なる建設的行動がとられねばならぬか。それは我々一人一人が新しい感覺と健全なる民主精神を把握して、狹いながらも美しい風土の上に豊かなる文化社會を打立てることによつて始まるのである。

文化國家として恥ない眞の文化は大衆が自己の自覺と省察によつて展開すべき魂の成長への努力によつて、その深い魂の奥から生れると云ふ點に於て、大衆の文化教養の高低は國力の大小につながるものである。從つてその向上を計ることは國家振興の根底を固めるものであるが、大衆が魂の向上を計るためには前提としてかくの如き意欲の生れ出する場所とその環境が先づ整へられねばならぬ。この點からも都市復興は既往都市の再現ではなく、新しい理念と構想に從つて新生すべきものである。

かつて都市は一國の産業經濟及び文化の中樞的結集點として、その巨大な人口集團の背景のもとに大きい役割を發揮して來たといふ點に於て、人々は之に祝福と讃美の言葉を與へてその生長を喜んだものであつた。しかしながらそれが本當に祝福に値する存在であつたか否かはやがて明らかとなつた。尨大なる人口と密集せる家屋を容し、無秩序に膨脹した都市に於て汚濁した空氣と水と失はれた綠の中にあへぐ市民は、既存大都の功罪を意識せずにはおれなかつた。そしてその醸す都市環境がそこに住む人間をして頽廢的享樂に生命を燃燒させなくては、生活衝動を確得しえない様な人間に轉落させるに充分であるといふことをもはつきりと知つたのであつた。しかしそれが意識された時にはその禍根はすでに深く、修正的都市計畫を以てしては根本的改造にははるかに遠いものとなつてゐた。

ともあれ文化國家に於ける都市の役割は、既往都市がなした如き大資本の利潤搾取場でも又一部階級の消費と享樂の場所でもない。まして人間の墓場と呼ばれるが如き生活力消耗の場所であつてはならぬ。新しく復興する都市は——農村は人が土を通じて己の人間性を追求しつゝ生存の糧を生み出すのに對し——そこでは人が人を通じて互の人間性を磨き合ふところであり、その有する最高の人間力の發揮によつて人類文化向上への糧を生み出すところであらねばならぬ。

多くの人々が指摘する如く既往大都市に存在したもろもろの都市惡が資本主義社會機構のもたらす必然の結果である以上、その基盤たる資本主義社會を改革せざる限り如何に都市形態を變化させても所詮無益の事であり、市民にとつて最高の人間力を發揮しうる様な生活活動身邊は現出されるものではない。これは資本主義が近代社會發達の一過程として果した貢獻を無視するわけではな

く、その功罪をここに論じようとするものでもないが、それが引續いて明日の社會をになうべきイデオロギーとして適當であるか否かは再考を要するところである。とはいへそれは政治の問題としてこれから我々が長い年月にわたつて闘はねばならぬ命題である。しかしそれは除々に切開かるべき茨の道であるにしても、今にして高邁なる目標を打立て現實に立つて賢明なる將來への見透しの中に、確固たる自信と、理想と現實を調和さす叡智とを持たなくては疲弊と窮乏にあへぐ祖國の再興を具現することは出來ないのである。

2 一般構想

しからば市民が日々の勞働と休息を通じて自己の人間向上に務める場と雰圍氣は如何なる形象的整備をなすことによつて期待されるか。先づ都市の構成の問題から入る。

都市の構成　都市の大きを豫め規制せんとする企ては既に彼のハワードの提唱せる田園都市に於てその外周を公有地としての農耕地帶で取り圍むことによりなされたが、現實に膨脹しつゝある大都市を綠地帶によつて阻止せんとする企圖はロンドン地方計畫に發する。そして同じ惱みをもつ各國大都市は何れもこれにならつて來たのであるが、綠地帶のかかる抑制障壁としての力は資本主義都市の前にはあまりにも微弱であつて都市環境の連續性を分割する效果はあつてもその膨脹を阻止することは出來ない。これは資本主義都市の發展性の根源がその經濟機構に由來するものであり、かかる經濟機構が人間の自由主義的恣意にもとずく利潤追求活動によつて推進されるものである限り、かかる自然的制約をこえて擴り遂に綠地帶をもその中に抱擁するに至る。しかしながらかくの如き都市の發展はそれ自體としては何等不都合ではない。唯それに附隨する幾多の缺陷要素の發生が必然的であるが故に排擊されるのである。即ち都市の巨大化に應じて均衡のとれた都市經營乃至施設の經濟的能率的充實が實際問題として伴はないから、都市の適正規模をこえて過大化するとそこに所謂都市惡が發生してくるのである。この限界は都市經營の合理性・社會文化施設の均等性等の點から各論者によつて2萬、3—5萬　或は10—20萬と稱されてゐるが、生產組織と消費活動に對する生活計畫の點から單位都市圈の大きを人口10萬と想定するならば、それを超へて膨脹する部分は如何に處理するか。普通考へられるのは母都市を中心とした衞星都市群の形成であるが、これは衞星都市が母市に對する依存性の大きい點に於て微溫的であり前述の如き中間綠地帶を併呑して連續化する可能性がある。よつて高度の獨立性を有する單獨都市即ち住居と職場を直繋し互に依存する一連の職種を過不足なく有する單位都市を中心都市に結集して單位都市連合體を組系せねばならぬ。現在の區は單なる行政單位にすぎぬのであるが之を單位自治體とする。

こゝで我國將來の都市產業の有り方について若干考へて見ると、もともと資源に乏しい我國が狹少なる國土の上に8千萬の人口を養つてゆくに必要な食糧と物資は當然海外に依存せねばならずその代償として輸出工業の振興が計られねばならぬ。まして生產財生產部門たる重工業が賠償によつて剝脫された後は國民の完全雇傭を維持するには輕工業の復興にまつ以外には道はない。ところで我國の輕工業は低廉なる勞働力を豊富に使用することによつて生產價格を低下せしめ海外市場に販路を獲得してゐたのであるが、もはやかかる方法で生產價格を切下げることは許されず、殘された道は生產手段の技術的改善による質の向上と生產組織の合理化により生產能率を高めることによつて生產價格の引下げを計ることである。そこで生產設備の貧弱な中小工業に依存した輕工業は大規模生產の形態に移り、生產の設備と方法を近代化し勞働の生產性を向上せしむべきである。都市計畫的には工業地域に於て主體工場を中心とし傘下協力工場を配置し一つのまとまつた工場集團たらしめる。そしてこれを各種工業別に各單位都市を形成せしめるものとする。

次に商業はこれが自由主義的資本主義經濟から生れたものであり、資本主義が一層發達して獨占統制的になるに從ひその存在的意義は稀薄となつた。まして世界經濟の動向が完全雇傭を根底として生產と消費の全域に亘つて計畫主義をとらんとしつつある現在、商業組織がやがて都市固有の構成要素とはなりえなくなるであらうと考へられるし、生產から消費への直接的にして合理的計畫的なる流通こそ社會的見地より最も望ましいもので

ある。この意味に於て既往地域制に於ける如く非生産的なる商業に對からぬ地域を與へることは妥當ではない。

地域制の立體複層化　地域制度は近代都市計畫技術の一前進であつたが、それが眞に合理的に且全市民のために十分適正に行はれてゐたかどうか。往々地域制度をしく以前の經營者の既得權擁護と見られるが如き土地の配分が見られたからである。從つて資本主義經濟の發展に寄與した程には都市住民の利益とはならなかつたと云へる。地域制の本旨が健康・安寧・便宜及び一般の福利を目的とする以上、如何なる土地配分が都市にとつて且全市民にとつて福祉をもたらすものであるかをこの際再檢當する要がある。

最近では地域制に於てその專用制を高度化する方向へ向つてゐる。しかしこの狙ひが平面的單能地域化を企てるものであれば果して土地の集約的利用度を高めることになるかどうか。例へば商工業專用地區や住居專用地區が嚴密に規定されても　職場と住居とが同一の意志において造成されなければ依然として朝と夕べには通勤者によるラッシュアワーが生じ夜は暗黑無人の街が存在することとなる。この矛盾は平面的に單能化された地域制を立體的に積重ねて複層化することによつて解決すると信ずる。即ち例へば高層建築の下階を工場とし中階を事務用にそして上階をその從業人及び家族の住居となし地階を倉庫に當てるが如きである。そして生産の或る工程をその建物内で終る樣にする。即ち一方の口から材料が搬入されれば流れ作業等の一貫生産方式を以て他の口から半製品乃至完製品が搬出される。これは輕工業、組立工業等に於ては十分可能と考へられ、かくて通勤のために交通に拂ふ時間的・勞力的・經濟的無駄を省き作業能率を高めることとなる。

交通の問題は過去の都市が惱み續けた問題であつた。都市環境の外延的膨脹擴大を如何にして阻止し交通能率を高揚させるかと云ふ技術的解決に腐心したのであつたが、資本主義都市の必然性は都市計畫の技術的能力以上に威大であつたからいきおい追認的計畫に止まつたのであつた。しかし都市空間の立體的複層的利用が企てられるならば平面上を交錯した交通は三次元的に解放されるからその醋綜性を減ずるわけである。かくて環境の整備と施設の充實が期せられ都市が平面的でなく立體的に伸びるならば例へ同一の人口許容量を以てしてもかへつて都市面積は縮小する。これは狹小なる國土を食糧生産に多くの土地をあてねばならぬ我國としてはかへつて望ましいことである。

道　路　道路計畫は唯に交通のみならず　上下水道・ガス・電氣等の敷設並にそれによつて建築が制約をうける等々を考へれば將に都市構築の根幹をなすものと云へる。

幹線道路網の配置に際しては全體系統とその沿道及び後背地の將來の性格及び規模の適確なる豫想のもとに充分科學的に決定せらるべきである。町は道路をつける事によつて開發されるのでなく、その土地の本來の發展的性格の故に開發されるのであつて、道路はその一促進手段に過ぎないのであるから、その發展性の把握なしには近い將來に必ず齟齬を來たすことは明らかである。——計畫が單なる計畫として終り實施するときには既に現實にそぐはなく修正を重ねなければならぬと云ふことは　明確なる理論とそれを裏付ける充分な調査資料をもたぬ現代都市計畫學の悲哀の現れである。一又既設道路の擴張が困難な場合は往々その裏町に敷設される結果、市街は近接して多くの幹線道路をもつて寸斷されることとなり、通過交通を排除して區内の靜謐を保ちその隣保性を確立すべきであるといふ基本的要請が破られるのである。從つて都市計畫の基構である道路計畫の巧拙は都市組成に生命を與へるか否かの別れ目となる。以上は道路が土地効用より規定されねばならないと云ふことであるが、ある場合には道路より土地利用に對して制約がなされるのも交通問題を解決する一手段である。即ち當該地區内の道路面積と居住面積或は業務床面積との間に一定の制限をなすのである。しかしこれは地區内の諸條件が同一の場合では可能であるが、しからざる場合は特定の道路に對して交通が集中するのは避けられない。

錯綜する道路の交通整理をなすための基礎條件は交通體の固有速度及び方向によつて分離し　各種交通流線の同一面交叉を避けることであるが、我國の如く歩行者・自轉車・路面電車・自動車等交通種類が多く且何れも重要な位置を占める場合には　例へ歩車道・急緩速車道の別をしても完全

なる解決は困難である。特に路面電車は市内交通機關として長所もあるがそれ以上に缺點をもつてゐる。今でこそ唯一の交通機關として驅使されておるが——當分この狀態は續くかもしれぬが——近い將來當然廢止される運命にある。事變前既に經營上の行すまりに達してゐた事を考へても明瞭である。從つて今後の街路計畫に於ては路面電車廢止の場合融通性のある如き割りつけにしておくべきである。もし廣幅員街路で專用軌道敷を設ける場合は一側によせて廢止後はバス專用車道とするが如き方法をとる。次に市内に於ては將來高層建築の出現が豫想されその上既述の如き建物の立體複層的利用がなされると、中階にそうて步道橋を設けることは步車道の立體分離となり交通能率と安全が期せられる。

高速自動車專用道路は市内では地下式（場合によつては高架式）とし郊外での高速を市内でも維持し得る樣にし、工場地では貨物專用道路となり重交通を分擔させる。

綠地の新意義　既設の公園が一般市民の公園としての効果を發揮するには遠いものであつた。公園を利用する人々は公園附近の住民か或は其處へ行く時間的餘裕のある一部の住民に限られてゐた。從つて公園が都市住民の生活に直接結ばれてゐたとは云へないのである。事實、大阪を例にとつても全市公園面積率は非常に低いが區單位に見ればかなり多くの公園をもつところも存在した。唯最も痛切に要望される密住地域に於て少いといふ偏頗性が見られたのである。この樣な綠地要求度の高いところがその取得が困難であるといふ理由でその儘に放置されてゐたと云ふ事は、都市生活に於ける綠地の價値に對する認識が不十分であり從つてその困難をあえて打開するだけの熱意に缺いてゐたからと考へられるが、新しい厚生綠地の觀念ではそれが市民一般大衆の日常生活に直結し生活そのものの中に浸透せしめ市民から疎外せしめられた自然を甦らせてその中から健全なる精神と肉體を育生する〝生氣〟を獲得するにあるといふことからしてもはや我々はこの事實に滿足出來ない。

人は自然を通じて己の生命力を感得する。これはやがて人間性の追求へと深まるものであり　人間の尊さを自覺し、人間的行動へと發展する。この自然を自己發現の容體となすといふことは自然と人間の融合が成立した時始めて可能となるのであるが、都市綠地にこの新しい効用を期待しようとするのは、都市に失はれた田園を回復し田園と都市の利益を集約せんとしたかつての田園都市の思想から前進して、綠地が保健性と共に市民の人間性を豊かならしめるといふ人間内部への教化的意義をも認めたものである。

如何なる人間であらうと自然を憧憬し自然に愛着を感じないものはない。これは人が自然の子であると云はれる所以であつて我々が永久に人間である限り遂に自然から離れることは出來ないのである。しかるに我々は自然界の平衡を破り都市に密集し水を汚濁せしめ日光を生活から遠ざけ煙によつて空氣を汚してゐる。かかる不健全な生活環境を持つことによつて精神と肉體に對する好ましからぬ影響を甘受してゐるのである。かかる弊害を除去し心身兩面に於ける健康的な街をつくるには自然環境を生活組織に導入さす必要がある。即ち普遍化された綠地を全市民に與へ人々の行動するところ遍く綠したたるヴエールでおほはんとするもので、この綠地普遍化、云ひ換へると住居と綠地の一體化は綠地計畫發展初期の綠地の散布とは異なり、市街地内の公園綠地や個々の庭園を孤立したものと考へず、都市の内容として一貫した社會性を全ての綠地に認めて、日常生活の基地である住居と職場から遊離してゐた公園や生活に餘裕のある一部の人々のみが占有した庭園を市民の全てに解放するのである。但ここにいふ私庭園の解放とは庭園私有の否定ではなくその効用の社會化を稱するのである。つまり庭園の存在は唯にそこに住む家族のためのみならず、その近隣に對しても効用を分つべきであり又かくあるべく構成されねばならぬと云ふ意である。かくして住居をとりまく自然環境の中で兒童が母親が老人が終日輝く陽光のもとで、樂しく遊戲をし散策し靜思の時を得るであらうし、職場をめぐる廣場では働く人人が運動に休養に活用するであらう。この樣に都市のあらゆる人々が日常氣輕に利用しうる細胞的小綠地が都市の構成に從つて系統づけられ、且隣保社會の中心としての近隣公園の中に公民館の如き地域協同中核體を具へるならば、やがて新しい社會心理が芽生へてくるであらう。

現在計畫されてゐる各地復興都市計畫では綠地面積の市域面積に對する割合は10%を目標として行はれてゐる。これは古い都市の貧弱な公園面積に比べると相當大面積の綠地が取得され、又建蔽率の引下が思ひ切つて實行されたならば都市の相貌は大分變化するであらう。——但この10%といふ割合は嚴密なる理論的根據から出たものではなく世界の標準的と考へられる都市の所有綠地面積から割り出されたもので、必要且十分なる最終量を示すものではなく當面の目標たるに過ぎぬのであるが、しからば都市は如何程綠地を持つべきかといふ問題即ち自由空地としての領域は、土地の經濟的相關性・立地條件・都市としての聚落性等を考へ、市民の生活過程の綜合的把握の中から引出さるべきものである。——ともかくこの樣に綠地面積が增大すると都市は綠の海の中に浮ぶこととなる。建物はもとより道路さへもたとへ100米の廣路であつても眞に交通の用に供せられるのはそこに於ける交通が淀みなく流れるに十分な最小の幅を殘し、他の大部分は植樹帶乃至道路公園とせられるが故にかかる交通路は綠地內の苑路とも見られるわけである。かくて都市は農村と同じく自然的環境の中に收容されことになるが、しかし旣に述べた如く都市の職能は文化財生產であり農村は土地生產であるといふ本質的相違は依然變らぬことは當然である。

尙都市綠地の造成は天然風景の模倣や描寫に終つてはならぬ。自然を解釋し之を人爲化し自然の有する有形・無形の効用を利用せんとする意圖が明らかに示され、存在の價値が强調されねばならぬ。そして風景のもつ情緖のみでなく思想をもその中から汲みとる努力がなされてはじめて人工造園の藝術的成功への道が開かれるのである。即ち單なる田園趣味を都市に導入しようとするが如き感傷的・浪漫的な感覺から出たものではなく、都市本來の文化景觀と田園の有する牧歌的風景の渾然たる諧調の顯現を意圖するものである。したがつてそこでは自然美と人工美とは對立させられるのではなく、對比をなすものであり一體として都市美を形成するものである。

住　居　そしてかくの如き自然環境の內に懷かれた個々の生活集團を戶—町—近隣住區—區—市と所謂段階構成に從つて秩序づけ、地域社會の確立と鄕土性の確保がなされる必要がある。このことは住居を單に獨立した個々の單位と考へず、地域協同體を構成する要素となし社會の合理的發展を期得するものである。この場合近隣住區の中心施設として小學校が注目されてゐるが、或は公民館を中心としその兩翼に小學校と敎會をもつことによつて、住民の精神的結集點として完全するのではなからうか。更に封建的遺制をのりこへ生活の民主化をなすためにはそこに新しい居住形式の確立が前提となる。これは民主社會形成促進の重要なる一手段であり、新しい住居は個人の尊嚴を守り生活文化の向上をもたらす協同的社會生活を推進するものでなければならぬ。その爲に共同住宅、集合住宅等が積極的に採り上げられ、生活の合理化・能率化・協同化と共に住居水準の向上が計られ、住生活の消費的意義と共に勞働力再生產の確保といふ生產的意義も亦認められねばならぬ。

綠地帶　都市環境の無制限膨脹を調整するといふ都市計畫的効果をねらつて綠地帶設置の當初の目的は當然改められここに新しくその意義が求められる。即ち綠地帶は都市を分劃して隣保單位を組成し、各單位區の獨立性を確立し限界づけ且相互單位區の有機的連繫帶として設置するのである。

この網狀にはられた綠地帶は主として公園道路及び帶狀公園並に生產綠地によつて構成する。こゝで公園道路とは休養的交通の用に供せられる自然的風致を具へた道路であつて、休養と交通の機能を連合せしめ個有の風景を維持し、思慮なき開發で損はれた風景の自然の魅力を回復する手段である。そこでは隣接地よりの直接的利用即ち採光・通風又は出入に關する私權は認められないからかかる行爲は制限せられねばならぬ。又帶狀公園は公園施設を有する帶狀の公共の土地で休養・運動・遊戲等の廣場や公共文化施設等の實用的要素を多分に持つたものを稱する。從つて運動・休養施設が不十分で且まとまつた地積の求められぬ都心部では帶狀公園は最も有効であり、周邊部の比較的綠地に富むところでは自動車道・步道・乘馬道等を具へ十分に價値のある風景をふくんだ公園道路が目的にかなふものと思ふ。

次に大都市近郊の生產綠地は如何に集約的經營

をなすも地代及び土地價格の高率のため農業經營は困難であり從つてかゝる都市的勢力の直接及ぶ地域に對して何ら法的規制がなされないならば宅地或は工場地として侵蝕され生產綠地の保續は困難となる。故にこゝを綠地地域として指定して用途制限をなす必要が生ずる。かかる生產綠地の經濟的意義は尨大なる農產物消費市場としての都市に對し、特に蔬菜供給源として重要である。尙生產綠地としては農耕地帶以外に都市林としての性格をもつ森林地帶をもふくむ。かかる森林は唯に市民に薪炭を供給するのみならず、保安上或は厚生的利用に大いに役立つものである。今後はこの樣な都市林は學校林としても積極的に造成する必要がありこの事は學校經營上はもとより教育上にも効果は大きいと思ふ。

都市計畫の民主化　市民の生活基地であるところの都市の計畫は市民自らの生活經驗にもとずいて、その手によつて樹立されて始めて民主的となる。現在の都市計畫委員會は個人的學識經驗者を以て構成され、官製都市計畫を手盛るための單なる諮問乃至建議機關たるに止まり、市民の總意を反映して都市計畫の定立を計る機關とは認められない。技術的研究は專門家にまたねばならぬか、構成委員には市に於ける各分野各地區の代表者を以て主體となすべきであり、更に國土計畫及び地方計畫で各都市相互の都市計畫を調整することを前提として、現在內務大臣にある決定權を市長にその權限を與へるべきである。

都市計畫が眞に市民の理解と支持を得るためには當局と市民の民主的なる相互信賴による眞摯なる融合がなければならぬ。かくして始めて民主的都市計畫が眞に市民のものとして樹立されるのである。

かくて豊かなる人間力を生み出す母床としての生活環境の形成によつておのずと過去の諸々の都市惡は消滅され、その人間性を培養し、結集し而して蓄積された人間力を高揚させる如き都市生活環境の形象的整備を計るのが眞正なる積極的復興都市計畫である。

之を遂行するためには市民の社會的・道德的人生觀乃至幸福感の確立即ち亦一面生活向上意欲を指導し育成し推進せしめると云ふ社會政策が取上げられる必要があると共に、都市精神即ち都市鄉土觀念の育成の重要さが認識されねばならぬ。

市民が低劣なる諦觀を離れず高き理想への希求を懷かないならば、何時迄たつても文化國家乃至文化都市の建設は覺つかないし、過去の市民に明らかに感得された都市的精神の稀薄さ又は欠除は都市の自治性に重大なる影響を與へたのである。これは市民の無自覺に對する批難ではなく市民をかくの如きものたらしめた封建制の罪であると云へよう。市民自らが都市に對する限りなき愛着と文化向上への強き意欲を燃燒さすとき、はじめて都市復興は市民自らの力とその盛り上る熱情により進展するであらう。混沌の中から正しく再生するその復興意欲は回顧的・低徊的であつてはならず創造的・進步的積極性を堅持することによつて、眞に市民にとつて幸福であり、住みよく暮しよく働きよい都市が展開されるのである。

3　復興大阪の都市計畫的展望

構　成　大阪市は高度の獨立性を育する19の單位都市（區）よりなる大連合都市となし、一單位都市の人口は平均10萬程度、從つて大阪聯合都市の人口は200萬となる。

性　格　輸出向輕工業を主體とする工業都市にして、貿易海運の中心たらしむ。

單位都市配分　便宜上區（單位都市）名は戰前のものを用ふるも區界は改變する。各單位都市はその從業者及び家族の住居部分を有するから住居區は設けない。

商業區（1）東區（2）西區（3）南區

文化區　（4）住吉區東部（5）住吉區中部

重工業區（6）西淀川區（7）此花區（8）大正區南部及び住吉區西部即ち木津川尻兩翼

輕工業區（9）東淀川區東部（10）東淀川區西部（11）新淀川以南の東西淀川區（12）北區(13)旭區（14）東成區北部（15）東成區南部（16）天王寺區（17）浪速區及び大正區北部（18）西成區

港灣區（19）港區

綠地計畫　(1) 省線大阪驛前より南海難波驛前に至る間　御堂筋と西横堀筋にはさまれた地帶を帶狀公園とする。この中に公館・公共文化施設を配置する。巾300—500米、延長4粁

(2) 1 に連續して省線湊町驛跡（廢驛とす）より高津神社に至る間、道頓堀川と千日前をふくん

で緑地帯とし、その中に歡樂施設を配す。幅250—300米　延長1.5粁

(3) 大阪城公園より眞田山、高津宮跡、高津神社、生田神社、寺町をふくみ天王寺公園に至る緑地帯、巾300—500米　延長4粁

(4) 3 に連續し天王寺公園より阿部野墓地、聖天山、阿部野神社、帝塚山、住吉神社、住吉公園、住之江公園をへて大和川河口に至る緑地帯　幅 300米　延長6.5粁

(5) 4 に接續し帝塚山より萬代池、長居公園をへて大和川に至る　巾300—1.5粁　長4粁

(6) 股ケ池、長池をへて長居公園に至る　巾300米　長2粁

(7) 毛馬より松島に至る淀川、土佐堀川、堂島川水邊地(1・3に接續)片側の幅100—300米　長9粁

(8) 7 に連續し片町京橋をへる寝屋川沿川、これは四條畷に至る公園道路となる。

(9) 北野、扇町をへて中之島に至る　幅150米—400米　長2粁

(10) 城東線とそれに沿つて森ノ宮東町から下味原町に至る市電街路間を緑地帯とす　幅150米　長4.5粁

(11) 10より旭光狀に (イ) 大今里、片江をへて生駒山に至る公園道路 (ロ) くだら、平野より信貴山に至る公園道路 (ハ) くだら、中野より金剛山に至る公園道路

(12) その他千里山、箕面、寶塚に至る公園道路。公園道路の幅員は50—600米とする。

(13) 先に空地帯として指定されたところを緑地地域として指定する

(14) 尙神崎川、新淀川、大和川沿岸は。保安緑地とす。

(15) 大公園として大阪城公園 (中央公園) 天王寺公園 (慰樂公園)、長居公園(運動公園) 東淀川公園 (運動公園) を夫々擴張しその他北港海岸附近に海濱公園を設ける。

交通計畫　(1) 外環狀線、吹田より赤川町をへて蒲生に至る貨物線と放出より平野に至る城東貨物線及び南海平野線を連結して外環狀線とする。現在の城東線は西成線西九條驛にむすぶ。各社線電鐵は既計畫の市內高速軌道に直接連絡しうる如く延長する。

(2) 市內自動車專用道路 (イ) 奈良街道は「くだら」附近で市內に入る一般道路と自動車專用道路とに別れ前者は寺田町に向ふ。後者は地下に入り天王寺省線堀割を利用して西走し (城東線は天王寺驛以西も高架となる)、大國町五丁目をすぎて地表に出で高架となり、泉尾、市岡、春日出い傳法をへて佃町に向ひ阪神海岸道路となる。この間、霞町・港區辰見町附近で市內一般街路と接續する。(ロ) 堺市東部を經由する新阪和自動車高速道路は我孫子にて大阪に入り、長池緑地帯を高架にて北上し、寺田町より城東線西側の緑地帯に入り蒲生・生江をへて淀川を渡り吹田に向ふ。この間、阪南町・寺田町・玉造・都島にて市內街路と接續す。(ハ) 本州縱貫自動車高速道路は守口・吹田・豊中・伊丹をへて兵庫縣に入るものと想定し、その市內連絡路を守口、都島天六間及び十三・豊中間に設ける。

建築計畫　內環狀線に圍まれた都心部は7乃至8階建連續共同建築とし、1・2階を工場、3階事務所、4階以上を住居又は3階以下を商店それ以上を住居に指定する。建蔽率15%以下人口密度ヘクタール當り350人程度とする。

外環狀線にかこまれた部分は3乃至4階建連續共同建築とし、1階作業場、2—4階を住居とす。建蔽率20%以下　人口密度300人程度とす。

外環狀線の外側は獨立又は集合住宅とす。建蔽率20%以下　人口密度100人程度とする。

港灣計畫　大阪港を後退せしめて河川港とする。即ち正蓮寺川・安治川・三十間堀川・尻無川・木津川を傳法・市岡・泉尾・今宮を結ぶ環狀道路迄幅員500米以上に擴張し、大汽船の溯上を可能とし更に之等の連絡運河を新設擴張する。

(1947・1・15)

御幸つ知事公館や青嵐

ダンス

夏足袋のきざむステップ輕ろやかに
ダンス好む妓の單衣帶胸高に
ステップをふむべく裳裾からげる妓
帶の間に扇のぞかせ踊れる妓
梟や踊り勞れの窓にゐて

浦上杜人

成長する制限内の小住宅

設計　日新建設工業合資會社内
岩原茂猪

假定

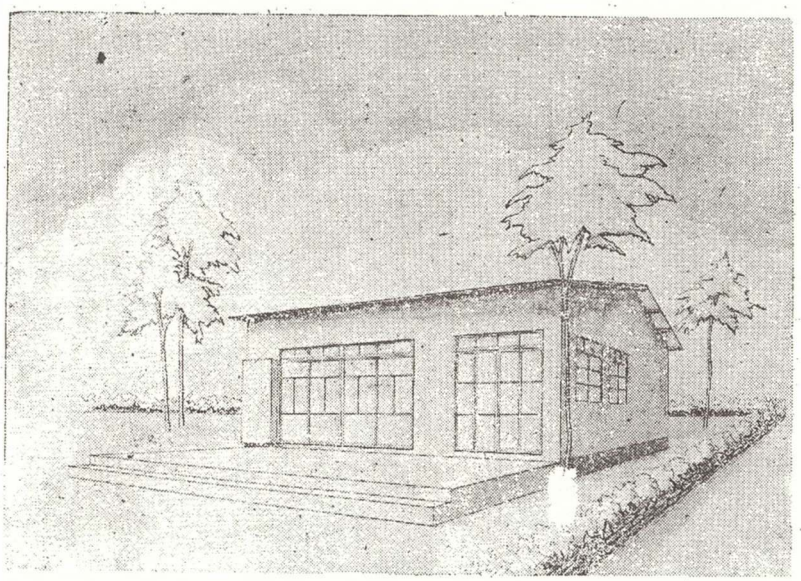
1. 家族　若夫婦と幼兒の三人
2. 敷地　効外の平地にして北側に道路を有する76坪5合の敷地面積
3. 條件　水道及燃料は瓦斯及電氣の設備を有するものにして日常生活は椅子式を好み將來制限が解除された場合西側に和室六帖に洋室四帖半の書齋を增築したい希望。

設計概要

平面配置は將來の增築と現今の情勢から考察して北側道路に近く配置し南側に自給自足の目地から菜園を造ります

建物の外部及內部は大壁セメントモルタル塗としますが和室は內部眞壁としします西側妻の壁は將來の增築を考へまして下見板張としまず

テレス及ポーチ玄關の床はセメントモルタル塗として目地をつけます



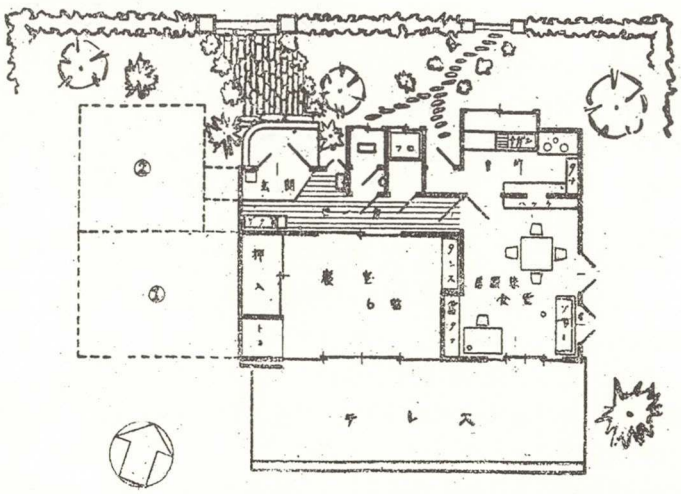
玄關を入つて左側の隅に傘立を置き正面の廊下に下駄箱を置きます、ホールの右隅に洗面兼手洗器を取付けます、ホールに上り廊下の右側に和室六帖の寢室が設けます又廊下左側に便所浴室を設けこの床はモザイクタイル張とします、便所は情勢の許す限り水洗式にしこいと思ひます、又浴室の湯沸設備は電氣又は瓦斯を使用します、浴室內流し場は洗濯場を兼用します

廊下の突當りを洋室（六帖大）とし將來增築するまでこの室を居間兼食堂とし來客の場合は應接をも兼ねることにします。

この室の北隣に一坪半の台所を配置し燃料はすべて電氣及瓦斯を使用し日常主婦の勞力を極力節約して家庭生活に少しでも余裕をあたへたいと思ひます

將來建築の制限が解除された場合は①和室六帖と②洋室四帖半を增築し①は居間兼寢室に又②は居間を兼ねた書齋とし主人直接の來客の時はこれを應接に使用します。

現在の居間兼食堂は增築後は食堂と家庭的交際面に於ける來客の應接に兼用することにしたいと思つています。



敷地面積　76坪5合
建築面積　12坪5合

建築施工技術の振興を計れ

渡　部　圭　吾

1　緒　　言

最近三十年間（但し大東亞戰爭期間を除く）に於る建築學の發達は目覺しきものであつた、その以前には建築學に關する書籍等も寥々たるものであつた、僅かに建築史に關するもののみが目立つてをつたに過ぎなかつた、其後、建築構造に關する論文が多數に發表せられ、次で材料學に關するもの、建築衛生工學に關するものが多數に發表せられ、戰爭直前では正に百花齊亂の有樣であつた。然るに建築施工に關するものは、建築施工法とか工事用機械工具とかの著書が僅かに見られるのみで、學問的な論文等は殆どなかつたと云ふても差支へない位であつた。

如何に建築設計に關する學問が發達しても、之れを實施する方面の研究と熟練とが不足してをつたならば、吾國の建築技術は決して進歩發達するものではない。例へば如何に研究の結果、立派な構造が考案せられたとしても、實施する管理者が無理解で、その要點を把握せず、然も職工が熟練を欠いでをつたならば、これまで彼等の馴れてゐる方法によるものより、却つて悪い結果を招來したことがあつたのは、これまでに屢々見受けられた。斯く施工方法が發達してゐない段階では、折角の考案も無駄になることがあることは銘記すべきである。然し、斯様なことは施工技術に對する知識とその熟練の水準が高くなりさへすれば、解決の出來ない問題は殆んどないのである。水セメント比の小なるコンクリートは、强度に於て格段の差のあることは、已に知られてゐることであつた、之れを實施するに當り振動裝置を使用すれば、易々と密實なコンクリートを打つことが出來る、强度も比較にならない程の强いものとなる。

近年「ウオーカビリチー」の問題が喧しく言はれてをつたが　これはコンクリート打にのみ適用さるべき問題ではない、凡ての作業や材料に對しても適用さるべき問題で、施工技術から設計技術に對する抗議であることを意味するものである。これ迄でも職工は「おさまりが悪い」とか、「馴染が悪い」とか、「素直でない材料だ」とかで時々抗議を申し込んでをつたが、優良な仕上を望む設計者並に施工管理者には更らに深く反省すべき點であると思ふ。

今日までの學校に於ける建築技術の教育に關する限り、殆んど設計技術の教育であつた、施工技術について殆んど教へられてゐないと言ふても過言でない、斯かる技術者養成の跛行的な政府の方針は決して圓滿な、建築技術の發達に寄與するものでないことは斷言し得ると思ふ。

2　技術附科學、工學、藝術の意義

哲學者デツソオエルの著書「技術の哲學」に、「技術は目標の把握とその實現のために、自然の法則的可能性な諸要素を淘汰し、組合とによつて知覺世界の對象を增加することと、固有な新しい質の製品を使用することを意味する」と。又「淘汰と組合せ即ち技術作業の目標は必らずしも對象でない、過程もその目標となる。尙、屢々副次的な目標就中、可能な限り時間材料の節約といふ經濟的な目標が前景に立ち現はれる、だが本質は依然として同じである、すべての方法は目標に相應し、創造的な花火を含んでみなければならぬ」とある。

以上のように技術は價値を實現することである。然るに科學は質又は法則に關する學問で、價値には無關係である。その諸關係は人間があらうとなからうと、存立してゐる。だが技術に於ては人間の生存、その目標、需要と給付に結びついてゐる。然し、技術は同時に客觀的な經驗の可能性を「科學」と分有してゐる。例せば人は機械に對して、物理的法則に關する研究と同樣な研究をなすことが出來る。だが、單に研究するよりも、もつと多くことなし遂げることが出來る、即ち更らに機械を發明し、建造し、運轉して奉仕に役立てることが出來る。機械そのものを價値づけ、それを以て價値を創出すること、即ち新しい分野を開

發し、新しい問題を可能の範域に引入れることが出來る。

昔時の技術は、天才の「勘」と「熟練」とによつて立派な作品を殘したが、今日では科學の力を借り、科學的に研究して多くのものを創造することが出來るようになつた。正宗の名刀は天才正宗の「勘」と「熟練」とによつて出來たのであるが、今日では同じような「切れ味」をもち鋼を科學的な研究によつて容易に製出することが出來る。

最近、科學も技術も著しい進歩發達の域に達した。けれども悉くのものが科學的な方法によつて究明せられるわけではない。尙、「勘」と「熟練」によらなければならぬ部分が多い。然し、技術は「勘」のよさだけでは發展性が少ない、科學と科學的な方法によつて分析し、究明してその質と法則を發見してこそ、始めて發展性が與へられるのである。又それ程秀れた技術者がゐなくとも、所謂「コツ」を理解すれば、あとは熟練によつて可なりのものを製出することが出來る。正宗の刀はその後正宗を凌ぐものが出來なかつたのは、科學的な說明で、その弟子にその「コツ」を理解せしむることが出來なかつたからである。今日正宗の刀と同樣な切れ味の鋼を作ることが出來るのは、科學が一般に進歩してをり、科學的な說明で後輩を理解せしむることが出來たからである。

工學とは技術を科學的に叙述する學問である。この工學によつて技術を多くの人々に普及せしむることが出來る。然し、技術には「コツ」と熟練とか言ふ經驗によるものが含まれてゐるので、工學者が必らずしも眞の技術者にはなり得ない。故に技術者は工學について研究すると同時に、經驗によつて熟練とその「コツ」を身に體得しなければならぬ。

科學には自然科學と人文科學とに分類することが出來る。自然科學は原子とか、電子とかの「物の本質」を究めるものや、數學のような數の學問を研究するのであるが、人文科學は人の精神活動や社會現象を究める學問である。物理、化學、數學、氣象學等は前者であり、心理學、經濟學社會學等は後者である。醫學の如きは人間の身體を自然物として取扱ふ時には自然科學の中に入るべきものであるが、衛生學の如く人や人の社會を取扱ふときには人文科學となるのである。

尙、藝術について一言してをきたいが、藝術とは、人間の感情即ち人間の喜怒哀樂を生命とする考へ方であり、人間の感情を姿、形（立體又は平面とも）音、文章等、人間の感知し得るものに表現することである。藝術を科學技術に對稱する言葉で解り易くすれば、藝能と技術の二つに別けて見ればよろしい、藝術の批評家などは、藝能的に高い眼識を備へてゐるのであるが、技術を有たないのであるから藝能家とも言ふべき人である、えらい役者、文學者、美術工藝品製作者等は高い藝能的な眼識を有する同時に、これを表現することが出來るのであるから、藝能家と技術家と稱する資格あるもので、即ち藝術家と稱することを得るものである。序で述べてをくが、之等藝術家の作品を藝術品と稱するのである。

尙附記してをくが、科學者又は技術家と言うても、劃然と別かれたものではない、科學や又は技術にのみ沒頭してゐる眞の科學者や技術家もないではない、が、同時に科學技術の兩方面を具へた所謂科學技術者も頗る多いのである。この場合、その本職とも稱し得べき方のみをもつて、一般には科學者又は技術者と呼んでをり、又世間では別々に取扱うてをる。人文科學の方では、その專門家を科學者とも技術者とも一般には呼んでゐない、經濟學者とか、心理學者とか、事務家とか呼んでゐる。藝術方面では藝能と技術とを兼ね具へたものが多いので一般に藝術家と稱してゐる。

又、一人で科學技術の兩方面の天分を有つ、更らに藝術の天分を備へたものもをる。同時に、ただ一つの天分しか有たないものもゐる。又人文、自然の兩科學と技術の兩方面を具有するも、藝術的な天分は少しも有たないものもある。之等の天分を有つてゐるとしてもその天分には厚薄がある。自然科學的な技術の天分を澤山もつてゐるが、人文科學的な技術は僅かしかもつてゐないこともあるし、その反對の場合もある、更らに藝術的な天分をもつてゐるものもあれば、ないものもある、人間が千態萬樣の姿をしてゐると同樣に、之等の天分の多少、又は天分所有の組合は種々樣々で、同じ程度に所有してゐることが少い。

（以下次號）

管工事の面から

岩井久雄

我國産業の再建は石炭の增産が基盤となると云はれ、先づこれに全力が注がれてゐる、同病者獨乙に於ても同樣なことが進められてゐるのである。まことに石炭なくしては、製鐵、發電、化學肥料の製造、セメントの製造等の如き大工業から小にしては町の浴場、洗濯屋に至る迄休止又は麻痺の狀態に陷るのである。そこで鐵、石炭、燃料油等重要資材の使用量が一國、一地方等の文化の程度を指示するバロメーターとなる事は明である。今我々管工事業の必需品たる管類に就て考へて見る、管の材質には鐵、鋼、銅、鉛、眞鍮、セメント、木材、ゴム、土、竹、象牙、人造樹脂等あり、その大さに於てはロンドンの地下鐵チューブや小亞細亞米國等にある送油管或は水力發電所の送水管の如く大きなものから煙加減器についてゐる細い眞鍮管の如きに至る迄色々ある。又その形に於ては圓形を普通とし短形、方形、楕圓形等がある、而してその必要度に就ては片田舍の一軒屋にてカマドに煙突なく流しは垂れ流しといふが如き家では必要な管としては火吹竹位なものか、之に反して大都市の豪華なホテル等に於ては地下室の天井に大小數多の管が秩序正しく配列されてゐる外、屋根裏、壁の中、地下等に無數の管が陰蔽されてゐる、即蒸氣管、還水管、上水道管、雜用水管、排水管、排便管、給湯管、瓦斯管、電線管、送氣管、排氣管、郵便受ダクト等々之である。未だビールの配給管の設備あるものは聞かないが近き將來には之も實現され月末にメートルによつて料金支拂が出來る樣になることゝ信ずる。

かくの如く管の使用量の多少が亦文化の程度の尺度となると考へることは我管引水的見解でないことが了解出來ると思ふ。而して米國はかゝる物資を桁外れに多く生產し且つ使用する點から現在に於ては世界最高の文化國と云ひ得るのでないか。この事は米軍が聯合軍の先頭を切つて我國に進駐して以來施行されたる軍用諸設備にもよく顯はれてゐると思ふ。即兵舍又は家族住宅の場を考へて見ると新築の場合を除いては土建工事としては僅ばかりの模樣替、床の引替、壁、天井等の塗替、棚垣の新設等に止つてゐるに反して管工事衞生設備關係としては必ず便所、洗面所の新設又は改造、シヤワーの新設、給湯設備の新設、給、排水、衞生設備、暖房、換氣設備を含むのである。就中給湯設備は我國では可なり高級の設備と考へられてゐる樣だが米軍では必需設備となつてゐる。又暖房設備の如きも相當高溫を好み廊下、便所、浴室、調理室等總て外套を着ない處には必ず設備するのてある。更にかの有名な水耕農場の設備に至つては無數の管工事が含まれてゐることは知る人ぞ知るである。

さて我々が進駐軍關係工事を施行して感ずることは、總ての工事がハバ・ハバ（緊急）工事であること、設計がよく變更されること、等で施行者は材料の入手、食料問題等苦辛が多い。現在我國には之等工事に使用し得る優良材料涸渇したるに、戰時中軍の指導により戰時型（敗戰型）と稱する粗惡品を造ることを覺えて以來良心的な優良品が製造されないこと、優秀な技能者の少いこと等惡條件が十分揃つてゐる上現場に於ては語學の貧困から相互理解の不十分などにより多額の國費が費消がされつゝあるに拘らず猶滿足ならざるもの往々にして生ずる有樣は遺憾に感ぜられる處である。

而して關係工事に於て今日迄最も多く問題となつたものは何であらうか、その一つとして水の問題があると思ふ、曰く水量不足、水壓不足、斷水、井水の場合水面低下、湧水、滅菌設備等々である、之等に關しては設計者に於て豫めよく調査してかゝらないと思はざる失敗をなすことがある。一例を溫水ボイラーにとつて見るに罐給水を市水道から直結したるものあり之は甚だ面白くないと思ふ、といふのは市水道の水壓たるや附近の使用狀態や土地の條件等により始終變化してゐるのが普通であるからそれに從つて罐壓力が變化する、市水道の斷水の場合を慮り罐への入口にはチエツキ辨を備へるのを普通とする然らば火夫が罐を焚に當つて非常に困難を感ずるであらう、即ち若し全部の活栓が閉ぢてゐる場合には溫度計を見て溫度がそれ以上上昇しない樣にすればよいが、うつかり焚く過ぎ樣ものなら水の膨張部分のはけ場が無くなり、從つて罐を變形し又は破壞する危

險さえある。之を防ぐため安全辨を取付てはあるがその調節に困る、何となれば水壓が屢々變化するのでその最高壓力よりも少し高い點に調節することゝし罐はその壓力迄堪へ得るかを確認して置く必要があるからである。この場合往々にして折角の安全辨もスプリング不適當なため必要ならざる時漏水するといふのでその根元に止辨を設け之を閉めてあるものなどを見受けるが危險至極である。此樣な場合には高架水槽を設けて給水し膨張管を取付けるのが最も安全である。かゝる問題を考へるに付けても米軍の持參品たるオイルバーナー燃燒式蒸氣罐で水位は自働的に調節され溫度は常に一定に保たれる樣に總て自働的に且つ二重にも三重にも安全裝置の付いてあるのを見ては只々感心の外はない。。こゝに於て我々は先づ科學技術の振興が望まれてならないのである。

都市復興への提言

富　田　　清

1. 都市の特性を生かす事

戰ふ必要もなくして戰ひ可惜尊い人命を、住居を、都市を灰盡戰禍に惑せし大責何處に在るや、荒凉たる都市見る影もなく放置せられあるは如何なる原因に起來せしや、私は想ふ狹い限られた我が都市に余りにも夢想的な机上一論の計畫に立脚せりと。都市地理の敎へる如く各都市は都市そのものを取圍む地理的狀勢に依つてその狀況を異にしてゐる。例へば四圍を山をもつて包まれたる都市あり、中央を貫流する大河を有する都市あり、背後に山脈を背負ひ一面を海濱に接する都市あり、その姿は四海海を運らし山影をもつてする我國に諸外國に見る如き都市を計畫する事それが既に都市復興の促進を防げる第一問題なりと思ふ。都市畫そのものは元來建築計畫と相並んで決定し實施計すべきものなるを建築計畫方面の事を全く忘却して土木的見地より中央に於て一方的に決定せしは都市の生態を見捨てるの策甚しくこれは今後にされたる大きな課題であり速刻改造せられ地方都殘市の計畫は都市そのものゝ有する特性と狀況及び都市規模の大小に應じて地方在任の專門技術者一般有識者と相計つてその都市の有する都市文化にふさわしい特性を生かし眞に都民全般の納得行くべき計畫を樹てる事が必要と思ふ。現在の都市を見荒凉として放置し有るは何に依るか余りにも現實を離れた都市計畫を爲せし爲手のつけ樣もなく財源もなく徒らに放置し、一日も早く戰災跡に店舖を住居を建築せんとするもこの放置し有る都市計畫に禍されて手の下し樣もなくよし建築せんとすれば都市計畫に支障有る爲め許可出來得すとの無放なる一言、余にも事實とかけ離れた計畫速かに都市の有する特性に生きた都市たらしむべく都市復興の促進を計る必要ありとし當局者に苦言を提するものである。

2. 都市建築の現狀

現在戰災都市に建築されある建築物の現狀は如何であらうか。それは萬人の知る如く極く一部の新圓收入を對稱とした階級に限られ建築の種類の主を占むるものは何と言つても大衆或は特權層を相手とする飮食店、旅館、料理店、娛樂機關にして一番必要を緊喫とする住宅建築は遲々として進ざまるは如何なる點に起來せしや深く探求するの要ありと思ふ。木材生產縣の都市復興建築は可成りの成績を收めつゝあるも矢張り主對稱は前記の程度種類にして將來に課せられたる責大と云ふべき住居建築が他の建築に比して速進しない原因隘路は種々有らうが現在將來とも大いに考へねばならぬ事は都市計畫實施の速進にあると思ふ。これと共に現在都市に建築され有る建築の構造樣式は余りにも淺薄、大小、高低まちまち全く都市文化を形成するにはすかしいものゝみ將來否明日と云はず平和を標傍せる文化國家たるには余りにも懸隔甚だしきとは云へ、これは最初に計畫せし建築屆出制の缺陷のしからしむ處とは言へ取扱當局の無能力に由來せるものと思ふ。屆出に於て平面のみを對稱として立面其の他必要圖を要求せずしかも斯うした屆出を衝に云ふ代書人其他の人に全く素雜に畫かしめ之に依つて裁決を爲せし結果に由來せり。これは今後急速に特定技術者の取扱うもの即ち後述せる範圍のものに限つてこれを受理し行事が必要と思ふ、現在使用され有る申請樣式ももつと精密に記入する如く一目して判然たらしむる必要がある。

3 建築統制と復興建築

現在實施されある建築統制は可なり要を得てゐる如く見らるゝも其の申請樣式其の他に於て改良すべき點幾多有る如く思はる申請理由の如何が許可の早遲に關係し有ろ事は勿論と思はる。もその事實と相違し有るもの有りこれを一面的に取扱ふは如何と思はる樣式、構造は建築の程度を表はすものなる故相當綿密に記入する如き事が必要と思はれる。官僚系統の爲す事故何もかも事なかれ主義であるが受理の際もつと專門的な立場より檢討して將來の都市文化にふさわしがらざるものはどしどし指摘改造する事が必要と思ふ。どんな不衛生な危險な建築でも受理するは都市計畫以上に禍を將來に殘すもの大なり且つ復興建築が木造である以上火災に對する構造、或は地震に對する豫防構造、敷地面積の比率等一つ一つ檢討する事が復興建築として必要なる事と思ふ。且つそうにした事を今までは誰でも勝手に取扱はれ適當に無思慮に爲されてゐるが將來は建築の設計、申請管理は現今司法書士がある如く建築士制度を速かに實施して建築士に非ざれば斯うした事は爲し得ざる如く爲し建築士には一定の規定と細則を設け、構造、樣式其他に關し一定の建築法規を適用し都市建築の樣式軒高構造等と云ふものは建築物の位置狀況に應じて適切なるものたらしむる事が必要である。斯うしてこそ都市文化にふさわしい建築が完成される事を思ふ。都市復興と云ふ重大なる問題を目前に置き監督官廳たる戰災復興院いたすらなる机上空論に終る事なく始終徹底したる計畫と統制に依つて一日も早く完全なる都市の完成を計り住に不足する今日一刻も早く國民文化度を表現する如き住建築の指導に當られん事を希望するものである。

會員相互欄

御連絡は本會書記長宛の事

★職を求む

都島工專建築科卒業24才。熊本縣下又は九州地方にて就職希望者あり。

★人を求む

大阪府土木部建築課にて建築技術者を募集されてゐる。

市內新興請負會社にて三十才前後現場擔當の技術者を求めてゐる。

★ 良材足場丸太並木箱荷造箱、椅子、机等半製品地方會員中に多數手持あり。希望者に讓りたし。

★圖書を求む

市內工專建築科にて建築と社會1號より取揃へたき希望。尙建築關係圖書多數求めてゐる

★宿所とアドレス斡旋

會員中廣島市內で宿泊される場合御希望に依りては本會支部設置個所（國泰寺町）にて便宜斡旋す。尙廣島市內で商取引其他のため連絡所設置希望される方あらば同地在住の會員中より便宜を與へられる向あり。

★緣　談

建築家を望む女子大家政出身。

妻を求む當方四十三才妻死別二子あり。

近時新聞其他で……宣傳されてゐる建築協會に就て。

昨年頃より市內に本會と類似の建築協會の名稱を以て建築に關連せる業を營む者あり　本協會と誤られ或は迷惑を感じておられる向もある由で問合せを受けております。之は本會と何等の關係もない全然別個のものであります。本會の對外的發表には必ず社團法人日本建築協會の名稱を以ていたしておりますから御諒承下さい。

尙本件に關しては會員各位に於かれても周知方御協力あらん事をお願いたします。

社團法人　日本建築協會

建築設備研究所紹介

本會の事業部門の内管工事部會では今般其事業の一端として建築設備の重要性を建築技術家に一層認識を深かめてもらひ設備技術の向上を計る目的で別記の通り之等關係者が研究所を開設したのである。之からの復興建設に際し誠に喜ばしい現象の一つであり時宜に適した企てと考へる。本會でも之が普遍に援助してゐる願くば各會社並に關係方面に於かれても趣旨に御賛同の上一人にても多く入所される樣御斡旋の勞を希ふ次第である。

日本建築協會管工事部係記

建築設備研究所の開設に際して

所長　工學博士　伊藤正文

此度、大阪府管工事協同組合主催の建築設備研究所が誕生發達するに際し、豫て此事の開始を望んでも居り組合員の方へお話合ひもしてゐた私共としてはその關係者として之に參劃することとなりましたのでこゝに豫ての考への一端を申述べましやう。

建築と設備は建築工事とは不離不則の關係にあるのは云ふ迄もないこととして、建築の意匠、造形的技法に對しても大きな條件を與へてゐることには比較的世間の眼が向けられなかつた憾があります。たとへば、前大戰後1920年代から1930年代にかけて勃興した歐米の新建築樣式は、それに伴ふ、否、その根底の要件となるやうな設備が出來たから、生れたといつて過言ではありません

それに、吾國の一部などでは形の美しさは新建築でありながら、建物としての働きは、古い乏しい設備しか施されないといふ片手落ちがあり、爲に新建築は無意味な遊戲とされることすらありました、それにつれて什器裝飾品迄もふさはしからぬ設備とは調和せず、從つて新しい工藝の造形部門の發達をも充分に見られない始末でした。

各大學專門學校はもとより工業學校での教科目の設備工學は、それ程には重視されませんでした又一般社會は、附滯工事といふ名稱の下に、建築工事につけたりのものとし、工費も無論少く、設備は出來るだけ節約するつもりで、却つて中途半端なものに終つてゐる場合が多く、現場では配管配線等の納り方が充分でないために折角の意匠設計をくづしてしまふやうなこともあり勝でした。

しかし、今日では、設備が建築の主體工事と同等、又はそれ以上に必要且つ重大であることが多くの人々に認められて來ました、それにもかゝはらず、その技能者の教養の機關に乏しい憾があります。

之が、若い建築技術者や設備にたづさはる技術者の人々の爲に補習的な講座がほしいと考へた理由であります。

尙、設備工學の基礎科學や隣接科學である學科例へば建築衛生學とか材料科學といふやうな學科も、一般の學校に普及されてゐないし、又大切な基礎的な事柄になるので、之等の方面の講座を加へて、吾々もお互に研究を重ねる必要が出來て來ました。偶々管工事組合の有志方の主張により、又日本建築協會の後援もあり、この研究所が發足致しましたことは時機に投じた文化事業としてその意義も使命も重いものと考へられます。

私共もその關係者として、出來得る限り、この機關の充實を計りたいものと思ひます、且つ現在では小規模の教室としての存在ですが、將來は、學界、業界の一般から利用されるやうな研究機關調査機關に迄發達させ、新しく豊かな資料も、こゝから提供出來るやうにしたいものでありますしその意味で建築界は勿論其他關係方面からの御力添を終りにお願します。　（昭和22年6月）

建築設備研究所規則　（1947・4）

1 目　的　新日本建設に特に重要な建築設備工學の指導研究の機關が不備な現狀を補ふのを當面の目的とする　設備技術が建築意匠や造形美構成の基礎となるのは當然であり、從つて日進月歩の世界的な建設技術の向上に寄與しようとする。

2 科　目　衛生設備、暖冷房換氣設備、建築衛生學、他に　厨房設備、電氣設備、材料科學、建築計畫概論等を加へることがある。

3 年　限　每年4月から翌年3月迄の1年間、當分每週火木、土、9時から12時迄又は8時から11時迄を講義時間とする。

4 手　續　中等學校（新制商業學校）卒業以上の學力あるものが、銓衡を經て入所出來る。希望者は申込用紙に記入し、銓衡料を添へて本所宛に申込むこと、銓衡は指定日時に口頭にて常識程度の試問を行ふ。

5 學　費　銓衡料50圓、入所料300圓、受講料每月150圓（なるべく3ケ月分前納）實習費若干

但し大阪府管工事協同組合員推薦によるものは銓衡料を免除する（當分）

6 役　員

所長	理事	工學博士　伊藤正文
理事		木村源三郎
理事	大阪府管工事協組	河村　茂
理事	其他	
講師		工學士　上林博雄
講師		工學博士　伊藤正文
講師	其他	

7 所　在　大阪市東區横堀五丁目三八

大阪管工會館

申込書

住所　氏名　㊞

學歷　職歷（勤務先）

保證人住所氏名　㊞

建築設備研究所員中　昭和　年　月　日

簡單なる現場英辭典

(A)☆現場常用語☆(1)

(ア)

アスファルト	Asphalt.
厚板ガラス	Plate glass.
I 形 鋼	I-steel.
亞鉛メツキ鐵板	Galvanized sheet iron.
油ペイント	Oil paint.
暗 溝	Closed Aquedvets.
青 圖	Blue print.
足代の建地	Plot of scaffold.
上げ下げ窓	Suspended sash window.
上げ下げボールト	Barrel bolt.
煽 止	Casement Stay. Doorstop.

(イ)

依 頼 者	Client.
井 筒	Well.
遣 形 杭	Stake.

(ウ)

請 負	Contract.
薄板ガラス	Sheet glass.
運 河	Chanals.
腕 木	Patlog.
埋 戻	Refilling.

(エ)

鉛 管	Lead pipe.
エレベーター	Concrete elevator.

(オ)

オイルステイニ	Oil stain.
大 釘	Spike.
汚水排除工事	Sewage Disposal.
母 屋	Purlin. Side Timber. Side Waver.
大 曳	Sleeper. Ground Beam. Sleeper plate.

(カ)

汲揚浚渫	Bucket Dredging.

(B)★簡單なる會話★(1)

竣工は十月卅日です。
　It will be completed at Oct- 30 th.
只今係の者が不在です。
　A person in charge is absent now.
まだ出來ません。
　Not yet.
運搬困難です。
　It is difficult to transport.
食事中です。
　He is at table now.
外出中です。
　He is going out now (He is absent now.)
貴方が御留守のときに何方に相談すればよろしいか。
　To whom may I consult, when you are absent?
○○中尉にお目にかゝりたいのです。
　I want to meet Lt.___ ___.
御目にかゝれて嬉しいです。
　Glad know you.
目下建方中です。
　We are built it just now.
モルタル施工中です。
　We are using mortar.
目下タイル張付中です。
　We are tiling it now.
目下屋根を葺いてゐます。
　We are roofing it now.
目下電氣配管（配線）工事中です。
　We are working on electrical works.
目下製材中です。
　We are milling it now.
此の建具は取替へますか。
　Do you want this fixtures changed?
此の間仕切は撤去しますか。
　Do you want this partition removed?

——(以下次號掲載す　希望要語申出られたし)——

▷建築文献小目錄◁(2)

A 構造力學

「影響線によるラーメンの計算」岡佐市田口文雄氏池上彌三郎氏共著 新泉書房發行 ¥ 35.00

「鐵筋コンクリート家屋の工場生活」扇田信氏建築學の研究 130. 131. 1 2號

「薄膜殼の周邊條件と靜定條件」橫尾義貫氏建築學研究 132號

B 構造計畫

「再建日本家屋構造」佐藤己之吉氏著 中村書店 ¥30.00 名稱は新しく、內容は極めて古い

「十坪住宅圖集」吉村孝義氏服部勝吉氏共著 彰國社 ¥64.30

「住宅雜組」田邊泰博士著 彰國社 ¥ 25.00 氏が主として諸雜誌に執筆してきた住宅關係の單篇を集めたもの、將來の住宅を考へる前に日本の住宅の發展を、窓、疊等に分けて文献上より明らかにし認識を深めたもの、一讀の價値あるものである

「武田五一博士の論文選集上、茶室建築について」 ¥18.00

「武田五一博士論文選集下、建築小論集」¥ 25.00 高桐書院發行

C 特殊計畫

「木造建築機械化施工と量產化の問題」平賀謙一氏建築雜誌 724 725號

「空中に樓閣をゑがく」瀧澤眞弓氏建築雜誌724 725號 封建性を打破して、公共的な觀念の下で新都市をゑがく

「都市人口の業種構成」西山卯三 建築學研究 132 134號

「輕量建築」科學朝日 11月號

(A) かまぼこ住宅、米國のFPHA (Federal Public Housing Authority) の研究住宅で、本會會報 第5號に招介した。

(B) のりつけ建築、木製飛行機の研究より結實したもの。大スパンの建築も可能であり、現に松本市內で建てられてゐる、膠着劑は尿素系合成樹指である。

D 其他

「土建用陶磁器化學工業實驗法」永井彰一郎氏 檜山眞平氏共著 共立出版 ¥ 25.00

「上下水道」廣瀨孝太郎氏著 山海堂 ¥ 30.00「アメリカの經濟とその建築」坂田美郎氏 建築學研究 134號

E 建築史

「法隆寺重脩小志」服部勝吉氏著 ¥30.00 彰國社 氏が法隆寺解體事業に從事された結果 多くの發見された構造技法を手に取つて解說されたもの

「日本の古橋」鷹部屋福平氏著 彰國社藝術文庫 ¥ 10.00

「日本門墻史活」岸熊吉氏著 大八洲出版 ¥ 30.00 宮室、社寺、城の門と垣を文献と實物の上から殆ど余すなく書かれた力作である。

「京都古蹟行脚」川勝政太郎氏著 一條書房 ¥ 26.00 京都地方の古蹟を一日のコースを中心に初めて其の地方を尋ねる人の良き案內として親切に集め說明されてゐる、無駄なく見學するに最適のしをり。

「茶室」千宗守氏著 河原書店 ¥ 25.00 茶人宗守氏が永年の研究結果に基いて茶室の本質を明かにされた、建築家敎養の書

「日本朝鮮比較建築史」杉山信三氏著 大八洲出版 ¥ 25.00 渡鮮數年の結實の一端をかく名付けて世に出た、意義ある書。

「巨石遺物」秋田縣より出た新名器時代の環狀列石遺物の招介、科學朝日12月 甲野勇氏

「上代の正倉院172~174號」手利久氏 文献余すなく調査された結果に基き 正倉院の種々問題を論じたもの。

「崇福寺問題とその經緯」 梅原禾治博士「史跡と美術」 173號



敗戰煙草談義

曾我部幸雄

敗戰後間もなく賣出された莨ピースとコロナは名前も其の意匠も懸賞募集に依つたものであるが、其の名稱は兎に角として意匠は余りほめたものではない肺病やみの樣なピースの色、上海の場末の煙草屋に見られる樣なコロナの意匠は共に專賣局制度と云ふ日本の煙草政策を語つて余す所がない。

且つて南米リオデジヤネイロに於て開かれた汎太平洋煙草會議で日本のゴールデンバットが其の意匠に於て一等に擧げられて居るのを知る人は少ない、今想出して見てもうすみどりの地肌に金色鮮やかにバットを打出したゴールデンバットの意匠はお役人仕事とは思えない鮮やかさではなかつたか？

亦同會議に於て〝若し日本が莨に於て專賣制を採らずアメリカの如く民間經營に任して置けば全世界の莨市場は日本製品に依つて席捲せられて居たであらう〟と云われて居る、だが日本の煙草が決して外國に出なかつたのではない、第二次上海事變後チエリーとホープが中支の一部に出て居る。而し英米の民間經營に依る莨とは到底太刀打ち出來るものでなく、味と云ひ意匠と云ひ比較にならず、遂に日本人の一部の人に吸われたに過ぎないのであつた。

敗戰後米軍の進駐と共にアメリカ煙草の一部が我々の目につく樣になつた。昔なつかしいチエスタアフイルド、ラツキイストライク、オールドゴールド、キヤメル等が軍用として來て居るが昔金色を使つた意匠も黃色となり銀紙の包裝もパラピン紙になつて居る。軍用の故かも知れない、恐らく本國では昔のままに金色サン然たる印刷で賣出されて居るのであらう。

日本では戰爭中から今日にかけてのぞみと云ふ不味い莨が配給になつてるが、パイプにつめて不味し、卷いては尙不味しで仕末に終えぬ莨であるが、其の昔パイプ莨として桃山と云ふのがあつた、丸い罐に入つて居て持つて歩くに厄介で蓋を開くと乾燥が早くて弱つたものだつた。此の邊にも專賣局の役人の頭の惡さが見られる。今米軍將兵に愛用されて居るパイプ莨はバイオレツト、プリンスアルバアト、ウオルタアラアレイ、ハアフエンドハアフ、ユニオンリーダア等七、八種類あるが何れもアメリカ本國及カナダの製品で其の行屆いた防濕防乾の包裝と鮮やかなプリンテイング及ポケツトに入れてかさ張らない樣に片側に附けたゆるやかなくぼみ等を見ると流石民營と無條件で其の親切さに頭が下がるのである。

昨日（五月五日）の新聞を見ると專賣局のお役人が莨手卷器の販賣を專賣法違反だと云つて大見得を切つて居るが、ケチな事を云ひなさんなと申上げたいまづい、不便な莨を配給しといて違反もないだらう。

民間に任せれば財源に困ると云ふのなら、困るだけの稅金をかければ良いだらう、幾ら多額の稅金を莨にかけても今の專賣制度より必ずうまい安い莨が國民の口に入るのは事實である。

莨を民營にすると米や桑の耕作段別が減ると云ひ出すかも知れない、冗談じやない米や桑に影響する程莨を生產した日には日本人は莨を吸ふ所でなく、莨の煙に包まれて了ふだらう。

日本唯一のトースト莨（實は日本唯一のインチキ莨だが）曉が一本で十錢、チエリー一函十錢の昔をなつかしむ者豈筆者一人のみならんや？

（完）

自作◎自修繕

堀口甚吉

建築家は新圓階級であり、增加所得稅を出す階級でもある。然し建築家である私は實行力に於て未能力者ともいふべき中等學校の教員をしてゐるので、戰中、戰後の生活のみじめさは、新圓階級の建築家の諸氏が到底想像をもなし得ない程である。幕末の足輕階級の武士の生活に私は沒落しつつある、この沒落者、落武者が溺れるもの藁でもつかむの例へによつてつかんだのが、この自作、自修繕である。私は貧しい自作農の長男として生れ、又建築家の一分派である大工の徒弟生活も二ケ年程經驗したものである、私の子供の時は、私の家は酒に類するものも、醬油、味噌は申すに及ばず綿も作り、着物も皆、母の手織りの縞物であつた。菊地寛の「父歸る」に絣の着物を熱望した少年期の寛氏の經驗がのべてあつたが、私はこれを讀んその實感をひしひしと感じたものである。

戰中、戰後にわたつて物資の欠乏と物價高になつて私は、幼年、少年の頃を思ひ、出來得る限りの物資の自作、自修繕を思ひたつた。

下駄が市の店に一足も陳列されてゐない時代があつた、歸省の節、自家の山から山桐を伐つて、これで自分の下駄、次男の高等學校生の高足駄を造つた、鼻緒は妻の自製であつた、靴は自分で造れないが、修繕は四五年來、私が日曜にやつてゐる靴修繕の台も昨今は金物屋に賣つてゐるが、私がやり出した時はどこの金物屋にも賣つてゐなかつた、私はこれは註文して造つたのである。

子供達の散髪も、頭髪を分けるやうになつた今でも私の日曜の仕事にしてゐる、まずい町の理髪師よりは私の方が腕ありと信じてゐる。

麥、甘藷も自作して配給米の不足は補ふに足るやうに計畫實施し、主食のヤミ買ひは一度もしたことがない、昨年は2000本の甘藷苗を買つたが、本年は甘藷苗も自作することにした、毎日この苗の大きくなるのを見るとその樂しさは亦格別である。

植木の手入、生垣の刈込みすべて自分がやつてゐる、家屋、建具、家具の修理、ペンキの塗かへ等は勿論自分がする、貧しい建築家として以上は必要がこれをせしめたのであるが、これ等をなさぬ或はなし得ぬ建築家が建てた家は、どこかに抜けた、不便な所があるやうに思ふが、これはひが目であらうか。　22年5月14日

關西三十年組先生の思ひ出

高坂信次郎

『建築と社會』も今少し、やわらかな記事をのせては何うかと言う意見が會員や讀者から相當あるので前の紫煙室を活かして改めて『サロン』という欄を設け會員諸君から、かたのこらない輕い趣味でもなんでも結構、自由にどんどん投稿して頂きたいと出版幹事會は注文して居ります。それで人を煩らはす前に幹事の一人私にも趣味の鮎釣りの記事を書けと注文されたのだが何んな釣りでも時季があるが、なかでも鮎釣りは極めて時期が短いのと全國大體六月一日が解禁になつてるので現在の印刷能力から考へて見ると鮎の季節がとつくに過ぎた頃に發行でもされる樣なことになるとなんにもならないことになるのみか反つて通人の物笑ひになるから釣り記はまたの機會として……本號では昔の建築大家の思ひ出を書いてお茶を濁して置く事とした、而し幸ひにしてこれが〝きつかけ〟にでもなつて會員諸君からこういつた有名無名の氏の隱れた逸話記なんか投稿される樣になれば一趣向かとも想像されたからでもある。こゝでは關西三十年組のお三人のちよつと變つた氣づいた思ひ出を無遠慮に記して見る關西三十年組と言へば會員は大體御承知の事と思ふ。前會長片岡（安博士）武田（吾一博士）松室（重光）氏の先輩先生方である。今はお三人共泉下に在すので定めしあの世から苦笑される事と思ふが……片岡先生のことについては本協會から追悼號も出版されたので先生のことは大半追悼號で書き盡されているが而し座談會の記事にも逸話といつた樣なものは話されてゐなかつたから茲では、ほんの二、三、先生の變つた樣なところを御紹介して見よう……何時か先生が南海電車で出かけられる

時に改札口で係りがキツプ拝見しますと言うと先生キツプは持つて居ないよといつて、さつさと通りかけると改札氏こんどはそれでは定期拝見しますと來た、先生定期も持つてゐない、改札氏乘車券なしでは乘れませんと引戻しに行くと先生曰く乘車券は此の通り持つてると優待乘車券を示されたので改札氏ブツブツいつて引返しかける今度は先生が承知せない、キツプだ、定期だと無駄な事を何回も言はないでこれからは乘車券拝見しますと以後改めろとお說教の一くさり……こんな場面も片岡先生らしい處が一寸窺れる樣な氣持ちがする。片岡先生はよく誰れにでも紹介狀を容易に渡されて受けた方も、された者も困つたと言ふ事をちよいちよい聽いた……その一例として紹介狀を貰つて行つた者も紹介を受けた方も困つて結論はなんにもならなかつて反つて迷惑したと言ふ話がある……南海沿線の某紡績工場（元片岡事務所設計）の增築工事の設計獲得運動が猛烈に競爭された事があつて（當時片岡建築事務所は廢されて居た）昔の先生のお弟子さんで獨立事務所を經營されてる連中が何れも先生の紹介狀を先方の重役宛に貰つてワンサワンサと押かけたもんだ。紡績側では何れも先生の紹介狀を持つて來るので誰にして良いか困つた結果先生に決めて貰ふと例の紹介名刺を持參に及ぶと先生こともなげに、ア…それは松室に遣らせと一晩で決定した、松室さんは紹介狀も貰らはず一度も會社を訪ねたこともない、結局先生の紹介狀を持つて再三足を運んだ連中は馬鹿を見た結果となつた。

本欄は短篇で多種掲載が目的だから武田松室兩先生の思ひ出は次號に讓ります。

會告

本會事務所電話番號は下の通り變更された。

土佐堀（44）1836.　3631

福　島（45）2862～2867（此分元のまゝ）

「ライター」まんだん

たけだ　けん三

戰時中に日本の渡洋ばくげき機に「シガー」と云ふニツクネームがついてゐたそうだが、型からくる感じの他に、—ライターですぐ火のつく—と云ふわれわれにとつて、悲しむべき愛稱であつたことを復員の飛行士に聞いた。私の弟もあの飛行機に乘つて、ニユーギニヤの東で自爆したのかと思ふと、ライターなんかで駄べつてゐるのは、ちとどうかと思ふのだが、終戰後町にライターがハンラシして、煙草を喫ふ人の幾パーセントかが恩惠を受けてゐる樣だ—私もその內の一人であるのだが。……十五年も前に夏山に入る前日ある運動具店で買つた¥1.50の獨逸製のライターで「イボ」をおせばパチンと蓋の開く簡單なもので、油を入れるところに丸環がついてゐて、細ひもでさげる樣になつてゐたのに、どこで落したか今は手もとにない。其の後、結婚の祝にYから送られた、ライターとケースのセツトになつたもの…これはハネツルベの樣な型をした腕を持つてゐたが……

冬の山小屋生活のときに見うしなつてしまつてケースだけは今だにつゝがなくやもめぐらしをしてゐる。大體私のライターはマツチ代用の實用性を買つて持つたのが動機だが、戰時中にマツチの配給がクルシクなり、ふとした機會に、ダンヒル型の上海製と云ふのを30圓で手に入れ…當時の相場でもすでに200圓だつたそうだが…愛用してゐたが何分中古品でもあり、どうも調子が惡く、石の磨滅がはげしく、其の上蓋の合せ目が食違つて來たりしたので、そのまゝ引出の隅に轉つてゐたが、空襲のありかけた當時、燈下管制の行き過ぎた九州のある町で、旅館をさがすのに、ローソク代りに使つたり、まつくらな旅館の枕もとに立て雜誌をパラパラ讀んで見たりしたときは、仲々乙な味のあるものだつた。終戰後どうもこのダンヒル型に虫のすかない所があるので、とうとう店頭でローソク型の一番舊型のものと取かへてもらつた勿論インフレの影響で高く評價されたために一文も金を出さなくてすんだのであるが……

これは和製にしては仲々調子もよく石の磨滅も前のダンヒル型に比較して成績よく20日以上も

もつし、油も1週間の旅行で經驗すみだが、たゞ風除がないため、プラツトホーム等では、上衣の中で用ひないと火のつかない不便がある。進駐軍の兵隊の持つてゐるダンヒルの戰時型？で圓型の風除のあるライターなんかは實用的だと思ふ。それに如何にもアメリカ的な機能の臭かする。

一昔前に南洋諸島へよく輸出された火焰式のライターも、仲々長もちするし、原始的な火焰の臭のするのもよいものだらうが、停電の多い此頃に一寸とローソクの代用に立てると云ふ譯に行かないので不便を感じることだらう。前の戰爭後にフランスあたりを廻つて來たある友人の畫家は、ロンドンで買つたと云ふボデーに14金張のあつたと云ふ眞鍮製のライターを愛用してゐるが、……このボデーの14金は巴里の夜あそびか下宿代の一部のためになくなつてゐるのだが……仲々落つゐた貴族趣味のあるものだ。これを愛用する友達の曰く『日本人ほどライターやシガレツト用のパイプやケースを持ちたがる國民も少ない』そうで、巴里なんかほとんど見かけなかつた由、勿論その當時のフランスではライター等には特別重稅がかゝつてゐたせいもあらうが。米國製の映畫を見てゐると煙草は大低ライターでつけてゐる樣だが、ケースから煙草を出すのは割合に少なく、日本の樣にシガレツトにパイプを用ひてゐる態なんかはほとんど見かけない樣だ。

流行とは云ふものゝマツチ不足からくる實用か手取早く製產の出來る輕工業への第一步か、いづれであるかはわからないが、一つ一つに特長のある型でも出來て、今後の見返商品として、無責任でない品物が出來ることを樂しみにしてゐる。こゝらで一寸、新憲法祝ひの特配の最後の「光」に愛用のライターで一服としよう。　22. 5. 3.

〔正誤〕 前號の瀧澤氏の論文のはじめに（マタイ傳）とあつたのは（ヨハネ傳）のまちがいで筆者のかんちがいの由。なおあの引用句の位置は本文の肩にすべきで印刷上の誤でした。

京都支部規定

第1條　本支部ハ日本建築協會京都支部ト稱ス
第2條　本支部ハ事務所ヲ京都市＝置ク
第3條　次ノ地域內ノ日本建築協會會員ハ凡テ本部＝屬スルモノトス
京都市
第4條　本支部ハ日本建築協會定款第1條ノ目的ヲ達スル爲地方的＝必要ナル諸種ノ事業ヲナスモノトス
第5條　本支部＝役員トシテ支部長、副支部長、常議員、幹事若干名ヲク
第6條　支部長、副支部長、常議員ハ支部員ノ選擧＝ヨルモノトス
第7條　幹事ハ常議員中ヨリ互選ス
第8條　支部長ハ會務ヲ統括シ、副支部長ハ支部長ヲ補佐シ、幹事ハ一般會務ヲ處理シ、常議員ハ常議員會＝於テ會務ヲ審議ス
第9條　役員ノ任期ハ2年トシ重任スル事ヲ得、役員ハ任期滿了スルモ後任者ノ選任＝到ル迄其職＝アルモノトス
第10條　通常總會ハ每年1回臨時總會ハ役員會ノ決議＝ヨリ若クハ支部員30名以上ノ請求アリタルトキ開ク
第11條　本支部ノ經費ハ本部交附金其他ノ收入ヲ以テ支辨ス
第12條　本支部豫算ハ通常總會＝附議シ決算ハ次年度ノ通常總會＝報告シ其承認ヲ經ルモノトス
第13條　本規定＝於テ特＝明示セザル事項ハ凡テ日本建築協會定款及規定＝準據スルモノトス
第14條　本規定ノ變更ハ總會ノ決議ヲ得ルコト

日本建築協會京都支部細則

第1條　本支部ノ事務所ハ當分ノ間京都市中京區夷川通河原町東入ミラノ工務店內＝置ク
第2條　本支部ノ役員ノ定數ハ當分左ノ通リトス
支部長1名、副支部長2名、常議員15名
第3條　會議ハ總會、常議員會及幹事會ノ3種トシ、支部長之ヲ召集シ、其議長トナル

附　則

本規定案ハ昭和22年4月13日ヨリ實施スル

京都支部役員（敬稱略）

支部長　松井清之助　副支部長　棚橋　諒　小崎　修
常議員（幹事）西山卯三　山內省三　林太作　大鳥居滿也　小瀧慶太郎　平尾茂一郎　本川駒三郎
常議員　佐々木左垣　安間立雄　山本礎十郎　末松佐一郎　佐藤正堯　館林能司　神野信次郎　高丘治季

會務報告

京都支部設立

昨年通常總會で決議された京都支部設置の件は其後地元發起人に於て着々準備を進めてゐたが機漸く熟し本年4月13日京都市上長者町木藤で其創立總會を開催盛會裡に終了目出度其スタートを切つた。當日會合せる者松井、棚橋兩發起人代表以下32名本部より會長代理中西副會長、常務代表尾崎久助氏、事務局代表大和書記長列席4時開會本川駒三郎氏司會の下に下記次第で進行した。

開會の辭、松井清之助氏、西山卯三氏經過報告を述べた後座長に松井氏推され議事に入り支部規程等を別項の通り審議決定。次に役員選擧に移り選擧方法を諮つた結果支部長を議場で推薦し副支部長以下役員は支部長指命一任を決議したので座長は多數の意見により支部長推薦方を諮つた所滿場一致で松井清之助氏を支部長に推薦決定した。松井氏は之を承諾し就任挨拶を述べた後副支部長以下の役員を選擧に代て指命する事を告げ棚橋諒小崎修兩氏を副支部長に其他の役員を別項の通り指名一同拍手決定承認した。次に22年度收支豫算案につき松井支部長は役員就任旬々で詳細內容提案の運びに至らず且は本部の承認を得て始めて實行に移るもの故本日は其大綱の承認を得後日役員會に諮り本部の正式承認後實施する事を決議されたい旨諮り一同賛成した、依て支部長は大要收支3萬圓程度をの內容概說して承認を得た。

以上で議事を終り中西副會長起つて竹腰會長代理として支部發會の祝福を述べ今日に至つたる各位の努力御援助を謝し併せて將來の發展を期待する旨の祝詞と希望と謝意を表し本部代表の挨拶を述べた、棚橋副支部長閉會の辭を述べ茲に記念すべき創立總會を無滯終了した。

終て茶話會に移り本部並支部に關する意見交換希望等あり尾崎常務より定款改正委員會の進行狀況中西副會長より部會機構、大和書記長より雜誌並出版其他の件につき各々說明應答をなし歡談5時半閉會した。

尙6時より同所で有志懇親晩餐會を催し出席26名自個紹介後宴に移り和氣靄々裡に8時解散した。　22. 4. 15. 小崎副幹事長記

廣島支部設立進捗

戰前から地方會員の福利增進と會勢發展に尤も熱心であつた廣島在住の會員有志は早くから支部設置に努力されてゐたが、あの世界的悲慘な原子爆彈のため此の問題も一時どこかへ吹き飛んでゐた。數年間は草木も育たぬだろうと云はれてゐた廣島の街にも花は咲き野菜は生き生きと芽を出し都市の復興も漸次賑やかになつてゐる。四散した會員も呉に廣島にと逐日其數を增し再建の意氣に燃え活躍されてゐる。中にも古林義敎氏、奥迫唯一氏谷川政夫氏、藤岡正一氏等は全く死線を越へた方々で共に宮脇氏時代から支部問題につき非常に協力されてゐたが今般機熟せりと見て之等の人々十名が支部設立の再出發を協議され古林氏を發起人代表として關係方面に檄を飛ばした結果去る4月17日在廣の業界、官衙、學校、事務所等會員30餘名が廣島土建會館に會して協會支部設置問題に就て協議された。

當日は本部よりも中西副會長、藪中常務、大和書記長が列席して挨拶や會勢及事業內容等の說明應答をした。

席上對學會問題や工業會關係其他種々意見が出たが結論として協會支部設置を申合せ直に其準備に着手する事となり支部規約草案作成役員の豫選も行ひ正式の手續は後日に讓り實質は支部設置と同樣な內容を持つ事となり目下事業計畫や會員並に維持會員獲得等諸般事項に着々として活動を開始されてゐる。

其後廣島支部設立申出書が提出され本部にては5月8日常務會、同月27日評議員會に諮り承認決議され近く總會に附議する運びに進んでゐる。

東海支部設立準備進む

協會創立年記念事業の一として各地に支部設立の議が起つた際其トップを切つて設立申出があつたのは東海支部であり夫は昭和18年の交であつた。處が時恰も學會との合併問題が著しく進展してゐたので本部では、暫く靜觀狀態になつてゐた裡に戰ひ峻烈を極め遂に終戰の幕となり協會も竹腰會長を迎え新發足と舞臺は變り、諸機構の改廢

など忙殺各地との連絡も茫茫今日に及んだが過般大和書記長名古屋出張の砌り當時より發起人代表の佐藤四郎氏、玉置豊次郎氏並業界代表清水組、竹中工務店外有志會合され至急支部設置進渉方の申合せがあり其旨を受けて歸任したのである。

此處に於て本部では5月27日開催の評議員會に一件書類と共に附議した結果東海支部設立の件を異狀なく決議したので近く廣島支部の件と共に總會に諮る運びである。一面名古屋にては佐藤玉置兩氏始め發起人の方々が目下設立につき諸設の準備に邁進せられてゐるから、すこやかな東海支部が誕生するのも近いうちと思はれる。

常　務　會（第3回）

時　　3月6日午後2時—30分
所　　本會別室
出席者　錢高、中西兩副會長、木村、鴻池、志垣須賀、東畑、藤木、籔中、岩尾、櫟田、竹中、西山各常務

議　事
1, 協議會並に部會幹事委嘱の件
2, 建築會館建設委員會設置並に委員委嘱の件
3, 事務員給與に關する件
4, 會員詮衡

報　告
1, 各幹事會、委員會、部會經過報告
2, 論文、設計圖案懸賞募集審査結果報告
3, 建築會館建設に關する件
4, 建築學會名稱變更の件
5‘ 關西經濟連合會長異動の件
6, 會計檢査報告
7, 1月分會計報告

常　務　會（第4回）

時　　4月10日午後2時—4時
所　　本會別室
出席者　竹腰會長、中西副會長、妹尾監事、尾崎木村、志垣、藤木、元吉、籔中、岩尾、城口、竹中、中野各常務

議　事
1, 京都支部設立に關する件
2, 東海、中國兩支部問題に關する件
3, 出版幹事會より申出の建築便覽の件
4, 各事業促進に關する件
5, 電話基本料增加の件
6, 會員詮衡

報　告
1, 幹事會、委員會、各會經過報告
2, 2, 3月分會計報告
3, 事務員改正給與決定の件

常　務　會（第5回）

時　　5月8日午後2時—4時10分
所　　大ビル本會別室
出席者　竹腰會長、錢高、中西兩副會長、淺海、木村、志垣、東畑、長尾、籔中、岩尾、佐竹、菅谷、栗原、西山

議　事
1, 京都支部豫算に關する件
2, 廣島支部設立申出の件
3, 委員會其他規程檢討並に改正の件
4, 協議會並に部會規程作成の件
5, 故片岡會長一週忌に關する件
6, 終身賛助員鴻池忠三郎氏逝去の件
7, 本年度事業計畫に關する件
8, 會員詮衡

報　告
1, 4月分會計報告
2, 建築會館委員會經過報告
3 日本建築學會正副會長就任挨拶
4, 戰災復興院大阪出張所開設挨拶

評議員會（第1回）

時　　5月27日午後3時20分—4時
所　　本會別室
出席者　竹腰、錢高、中西各正副會長、大村監事石川純一郎、評議員外56名（委任狀出席者共）

議　案
第1號　昭和21年度收支豫算決算報告…承認
第2號　京都支部收支決算に關する件…承認
第3號　廣島支部設置方申出の件…承認
緊急動議による追加議案
東海支部設置方申出件……承認

以上各議案は全部承認となりましたから近く臨時總會を開催して附議する豫定であります。

定款改正委員會

本年1月29日第1回委員會開催以來5月28日第10回委員會で一應改正案の成案を得たので引續き細則の改正に着手することゝなりました。尙改正定款案は何等かの方法で會員各位の御意見を聽くことになるかと思ひますがその際は腹藏なき御意見御申出でを期待いたします（22, 5, 30）

京都支部幹事會（第1回）

時　5月24日午後2時—5時
所　支部事務所（ミラノ工務店）
出席者　松井支部長　小崎副支部長、小瀧、西山林、平尾、本川、山內各幹事
協議事項
1, 請負資金融通の件
2, 建築美化運動の件
3, 無料相談所開設出版計畫並に都市衛生化運動の件
4, 耐震補强の普及に關する件
5, 見學會開催の件
6, 文化運動との「タイアツプ」に關する件
7, 支部會館建設の件

維持會員入會者氏名（數字は口數）五十音順

安宅產業株式會社（5）、淺海電氣產業株式會社（8）、株式會社淺沼組（15）、淺野物產株式會社大阪支店（5）、朝日管工業株式會社大阪支店（5）、株式會社朝日工業社（5）、旭管機工業株式會社（1）、旭工機株式會社（4）、旭電機產業株式會社（4）、株式會社新工務所（5）、井上商店（1）、伊藤電氣工業株式會社（4）、株式會社飯田組（2）、株式會社池田組大阪支店（10）、石井建材社（1）、稻葉慶一（1）、愛媛建材有限會社（1）、合資會社榮興商會（1）、株式會社大阪城口研究所（5）、大阪電化產業株式會社（4）、大阪電氣工事株式會社（4）、株式會社大阪電氣商會大阪暖房商會（13）、大阪電機工業株式會社（4）、株式會社大林組（25）岡部商會（1）、株式會社奥村組大阪支店（10）、加藤工業所（1）、株式會社鹿島組大阪支店（20）、嘉納組（5）、神崎組大阪支店（1）、合名會社木下商店（5）、株式會社木村組（15）、木築喜代一（1）、共立電氣工事株式會社（1）、株式會社桐田商會（5）、近畿土木有限會社（1）、近畿電氣工事株式會社（15）、工藤電氣株式會社（8）、藏下仁三郎（1）、栗原工業株式會社（8）、桑田硝子合資會社（10）、株式會社建材社大阪支店（5）、カナエ建材株式會社（1）、株式會社鴻池組（25）、齋藤久孝事務所（5）、株式會社齋藤省三商店大阪支店（5）、株式會社阪鐵工所（1）、三機工業株式會社大阪支店（9）三建工業株式會社大阪支店（15）、三晃商會（1）、株式會社三興社（4）、三和電氣土木工事株式會社（4）、株式會社清水組（20）、株式會社清水工業所（2）、島藤建設株式會社大阪支店（10）、昭和溫調工業株式會社（2）、須賀工業株式會社（12）、株式會社錢高組（25）大成建設株式會社（20）、大和工業株式會社（5）、大和石綿工業株式會社（1）、太洋組株式會社（1）、第一工業株式會社大阪支店（5）、株式會社高田商會大阪支店（5）、高田電氣工業株式會社（4）、株式會社竹中工務店（25）、淡陶株式會社大阪支店（5）、鐵道建設興業株式會社大阪支店（10）、株式會社東亞鐵工所（5）、東洋キヤリア工業株式會社大阪支店（5）、株式會社東洋建材社（1）、株式會社富島組（10）、內外通商株式會社大阪支店（2）、中澤英譽（1）、株式會社中島組（15）西久商店（1）、西原衛生工業所大阪支店（5）、日建工業所（1）、日產土木株式會社大阪支店（1）、日本建設產業株式會社（10）、日本石綿セメント製品工業統制組合大阪支店（1）、日本陶織株式會社（4）、野澤石綿興業株式會社（10）、株式會社野澤幸三郎商店（10）、株式會社萩原組（10）、株式會社間組大阪支店（20）、株式會社橋本組（15）、濱原豊（1）、阪神復興工業所（1）、合資會社樋口商店（1）、扶桑工業株式會社（1）、福田利晴（1）、株式會社藤木工務店（15）、藤木會社藤田組大阪支店（10）、株式會社紅金網工業（5）、保坂工業所（2）、前田浩一郎（1）、槇山工業所（2）、增成土木建築株式會社大阪支店（10）、株式會社松岡組（5）、株式會社松村組（20）、三澤商會（1）、株式會社港電機工業所（4）、村山義七（1）、室谷商店（1）、株式會社ヤマト電氣商會（8）、合資會社山田工務店（5）、山村電氣工業所（4）、山本電氣工業所（4）山本窯業商店（4）、理研機械株式會社大阪事務所（5）、理想建築株式會社（5）、和光工業株式會社（10）、和田組（20）、

兵庫會勢幹事會主催姫路城見學

兵庫幹事會では4月26日國寶姫路白鷺城を見學し盛會裡に終つた、當日の概況は下記の通りである。

平和の今日お城の見學でもないと思つた人もあつたらう。

然し今は戰さの城を見るのではなく數少くなつた國寶、平和の國家が保護する建造物否五百年の歷史を持つた建築土木を通じて古人の偉大さが見學したかつたのであつた。

既に花が散つた後でもあつた。殊に此頃交通機關の不如意の折からをも考へて參加者も少數に豫定したのであつたが豫定時刻に集合されたのははたして14,5名であつた。しかるに晝食後出發せんとする時は刻々に增して30部用意した案內書は無くなつた。追加した10部の寫眞も出切つてしまつた。

話を聞くと省線も山陽電車も故障があつて2時間餘り不通となり或は貨車に或は電車に乘換へに依つてやつと來られたのであつた。

交通は不如意、花は遲し、何時でも見られる姫路城、ことさら、當日は特に故障のあつた交通機關を排し參加された會員諸君に感謝すると同時に大和民族の如何に平和愛好、史跡追慕の民であるかと云ふ事を裏書された思ひであつた。

公園に向つて復興街を公園事務所に集合した。菱の門前櫻の下に集合、瀧澤幹事の城の外觀に就の大略の說明を聞き、入城した。

陽和ら振る葉櫻に城史聽く

城濠は乾れて蓮の莖が泥にさゝつてゐる。

水乾れて堀は背にあり花の散り

大手門にかゝる。此處は池田公が城主時代に築城された所謂菱の門である。

大手門花に上げ葉の蝶や舞ふ

豊公の築城當時、石垣の石を地方民に供出を命じた一糊引業を營む姥が已が使用する引臼を自らさげて供出した。秀吉はこれを非常に喜び當時天守閣石垣の一部にこれを積込んだのであつた。それが今もそのまゝ當時の俤を殘してゐる。

豊公を花にかたるや姥が石

いよいよ天守閣に登るのである。これは明治時代に一度修築されたものにして今では當時の修築巨材も何百年の材も見分けのつかぬ古色になつてゐる。

天守より望むや花の復興街

天守閣を下城して西之丸に向ふ途上腹切丸を過ぎお菊井戸に御殿女中の哀史を聞いたのである。今も當時の哀史を語るお菊蟲等の話があり、その蟲の發生する櫻の木も三代になり今では花も唉かぬとの事である。

三代の花や淋しきお菊井戸

西の丸化粧櫓に向ふのである。此處は昭和6年國寶と指定せられたと同時に國庫の財を以てほとんど改築せられ美觀そのものである。

千姫の哀史を花に西の丸

化粧櫓に入りて當時秀頼と別れた千姫が本田忠刻に嫁し當時忠刻は當城の城主であつた。千姫のためにこの西の丸を築いたのである。將軍家より化粧料として數萬石を與へられた。千姫を守る殿女局々が列んだ廊下は百間廊下と稱されてゐる。

百間廊下局々に風薰る

化粧櫓の御殿、紋緣、疊の敷きつめた寢殿に特に昇殿を許され、これに座して瀧澤教授の我國の城史に關する講義を聽きて當日の見學會を盛會裡に終り、記念品姫路城寫眞5通と姫路案內記を呈して解散したのであつた。

葉櫻に偲ぶ下城やいろは門

終りにのぞみこの見學會の爲に一方ならぬ御援助を賜つた石見姫路市長殿、前田姫路庶務課長殿姫山公園事務所吏員諸君、竹中工務店、鹿島組、清水組、中島組の各姫路出張所長、長谷川工務店社長諸賢の御厚志に對し本誌を通じて深甚の謝意を表する次第であります。

日本建築常務兵庫會勢幹事會副幹事長　岩尾步月記（22. 4. 27）

大阪會勢幹事會

前號揭載後の本幹事會事業は下記の通りである。

趣味の見學會

三月九日雪空の寒い日奈良二月堂水取行事の內食作法と籠堂を有志の者が集つて特別見學をした當日は折よくも、皇太子殿下が御立寄り遊ばす日で一同御送迎申上げる事も出來て一入意義深きものがあつた。今や朝野をあげて食難問題

で論議されてゐる折柄行者達の絶食の籠堂佛行事や感謝と念佛の食事作法を見た事は又變つた意味で面白い趣味の見學であつた。1年1度の行事で多人數參觀が許されないもの故次號に其模様を紹介再登場する豫定である、詳しくは次の本誌を待たれたい。

懸賞圖案の展示と講演會

豫而募集した大阪市公館設計圖案入賞作品の展示會と近藤博夫氏の都市復興講演會を4月2日清水組大阪支店講堂を拜借して開催した、圖案は將來の大阪市につき相當興味深く參觀されたが近藤さんのお話は時間の都合上建築技術者が將來の都市復興につき如何に重要性を負つてゐるかの寸言で聊か物足りなさを痛感してゐるので機會を得て此度は大阪市長としての近藤さんを聘し復興問題につき改めて御抱負や御意見を拜聽したいと思つてゐる。

濱寺地區進駐軍家族住宅見學

豫而南海沿線濱寺公園一帶の地に淺沼組、大林組、錢高組で工を急いでおられる首題住宅の見學を府特建課の御斡旋の下に去る五月15日之が見學を擧行した、近來新建築物の見學など甚しく機會が乏しいのと進駐軍住宅と云ふ一般に見學出來ない所と五月晴れの當日の好天などに惠れてか期せずして200名近い參加者を得主催者並に格別の御世話を願つた上記三社側の諸準備に大番狂を演出させ大變御迷惑をかけると云ふ嬉しき悲鳴を上げた程の大盛會であつた。2時木村幹事長開會挨拶後大林組宮村建築部長が3社を代表挨拶された後下記の通り御關係の各スタツフより懇切御叮重な說明を聞き全員を三班に分ち各社より各班毎に數名の御案內者を配され第2期工事約60棟につき見學した。

說明。大林組上山土木係主任

七海建築係主任、岡田資材係主任、關西配電今井主任、大阪ガス別所課長各位

各班案內。三社より土木建築資材係の各設備西原衛生工業所主任各位

見學個所。教會、劇場、クラブ、學校、家族住宅、商店、診療所、消防署、管理事務所、給水所、ポンプ室、ガソリンステーション、傭人合宿及防潮堤。等

以上一巡見學後松林に設けられたる休憩所に歸り三社より御接待の茶菓を受け小憩した、木村幹事長主催者側を代表し特建課始め三社に對し感謝の辭と參加會員に挨拶を述べ三社側より宮村氏代表答禮の言葉ありたる後歡談隨時散會した。尙此種見學として今回の如き規則だつた至れり盡せりの懇切なる說明と整然たる組織を以て御案內を頂いた事は全く始めであつた。此點誠に感激に耐へないのである。茲に重ねて御斡旋役の特建課長以下諸官並會場青寫眞其他御準備や茶菓御餐應等多大の御便宜と御厚志を頂いた淺沼組、大林組、錢高組三社御關係各位に對し厚く厚く御禮申上げる次第である。

追而今後見學のプラン等揭載する事が許される場合は機を得て誌上御紹介したいものと思ふ。　22. 5. 20. 木村大阪幹事長記

建築便覽(附會員名錄)發行進捗に就いて

前號豫告の便覽發行は目下原稿整理其他着々準備を進めてゐる。內容の資料蒐集にも御協力を煩はす次第である。特に職域別業者案內欄の充實は各方面より多大の期待を懸けられてゐるが、之が募集は容易な事でなく一重に會員各位の絶大な御援助を御願ひする。

(案內欄一口500圓內容概記前號參照)

◇豫約募集◇

尙本便覽は現下の狀勢により相當經費を要し一面紙材難等のため自然發行も必要部數に制限の計畫である。會員各位には印刷實費(實費は作成の上決定)を以てお頒ちする豫定であるから御希望の向は部數と氏名を至急お知らせ願ひたい。豫約部數以外は配本が出來ない見込である

社團法人 日本建築協會
出版幹事會

元會長片岡先生御一周年を迎えて

故片岡會長が忽然として長逝せられたのは昭和二十一年五月廿六日梅雨もよひの日であつた。

當時工業會、榮會並本會の三者か公會堂で盛大な合同告別式を營んだのも、つい此の間の様に思はれたが隙行く駒の足はやみ實に光陰は矢の如く流れ既に一年の昔となつたのである。

片岡家に於かれては去る五月廿六日に桃山のお邸で神式により一年祭がおごそかに取行われたので本會からは竹腰會長、錢高副會長及大和書記長が參拜した。竹腰會長玉串奉典は協會が潑剌と新發足して國土再建に奉仕せんとしてゐる現狀を心から報告もされた事であらうし、片岡先生の靈もすくすくと發展しつゝある協會の有様をお悦びになつてゐる様に想ひなされ彷彿としてお姿を偲ばれ感慨無量のものがあつた。

生前こよなくお慈くしみになつてゐられた數多いお孫様達が當日玉串を捧げられた中にお小さい方々のあどけないお詣りのお姿がとてもお可愛ゆく微笑しくも感じられ又一抹の淋しさも身にせまつたのである。去る者日に疎し故會長の噂も日と共に薄らいで來たがお殘しになつた偉大な御事蹟と協會に盡された數々の御功績は不滅であらうし今後吾本會がなすべき事業に當り先生の御事績を通じて示唆を受ける事も多かるべし追慕の念禁じ難いものがある。此處に御一年祭を迎え先生をお偲びし其御冥福と御遺族の御多幸ならん事を心からお祈りする次第である。

蘭香る部屋肅として祝詞かな
祭すんで扇の音の一時す

姫路城見學スケツチ

岡　一　丘

靴下げて天守に登る春の暇

西丸化粧部屋に登座

由緒きく疊の紋に薫風す
春深き百間廊下渡りけり
城出れば暫しまばゆき薄暑哉
逝く春を白鷺城下に惜しみけり

協會員死亡者氏名

（昭和22年2月以降届出分）

前號掲載以後通知を受けました協會員死亡者下記の通りであります。茲にその氏名を記し謹んで敬弔の意を表します。

正會員	（死亡年月日）
笠井新十郎君	(20, 10,)
荒川利一君	(19‘ 4, 22)
高田昌平君	(22, 11‘ 5)
船本普君	(不詳)
渡邊正治君	(不詳)
上久保節男君	(19, 4, 26)
五島政雄君	(不詳)
高橋種夫君	(不詳)
橋本實君	(19, 9,)
藤井龜之助君	(19, 12, 6)
山口挺二君	(19, 8,)
井上貢君	(22, 4, 29)
今村次男君	(20, 8,)
西田偉三君	(不詳)
地方正會員	
辻本勇君	(20, 8, 5)
終身贊助會員	
糸永文古君	(不詳)
鴻池忠三郎君	(22, 5, 5)
贊助會員	
濱芳雄君	(不詳)
準會員	
谷口利常君	(不詳)
富田勇君	(不詳)
成田一男君	(不詳)
福永貞夫君	(不詳)



會員バツチ分頒の件

戰時中製作中止の會員章が七月下旬出來る事となりました。銅材に銀メツキ上記型狀のものです見學や各會合の場合は是非必要のものです、新入會の方や紛失されてゐる方は至急御申込下さい

代價一個拾五圓（送料一個五圓）

目　次

住宅經濟の再建……ニシヤマウゾー……1
復興設計當選圖案　天王寺區……西山卯三……3
南　區……石原正雄……6
同上審査所感……瀧澤眞弓……9
入選論文　明日の都市復興……伊藤甫……10
都市復興の理念と構想……新田伸三……21
成長する制限内の小住宅……岩原茂猪……28
建築施工技術の振興を計れ……渡部圭吾……29
管工事の面から……岩井久雄……31
都市復興への提言……富田清……32
建築設備研究所の開設に際して……伊藤正文……34
簡單なる現場英辭典……35
建築文献小目錄……36
サロン欄……37
會務報告……41

編輯後記

再刊第二號も 3,4,5, 月の合併とした、世情が或程度落付いてあらゆる隘路の見透しがつく迄は暫し合併號も御辛抱願ひたいのである、本號は曩に協會が懸賞募集した明日の都市復興論文と公館地區設計圖案の入選作品を主材とした、處が今回は掲載事項がかなり多く又貴重な原稿も相當寄せられて喜びにたえないが乍遺憾紙面の都合上渡部圭吾氏の原稿は一部を掲載し武田健三氏の稿と共に次號に讓る事となり誠に申譯ないが不悪御許し願いたい。締切後頂いた藤田金一郎氏並丹羽説子さんの玉稿と共に次號を期待されたい。サロン復活で聊か柔味が出來嬉しい事の一である、肩のこらない此種の稿を尤も歡迎してゐる。本會も各地に支部が產れつゝあり發展の意氣に燃えてゐるが此方面よりの記事も一般の御投稿と併せて待望してゐる。かくして會員各位の協會誌となる樣一層の御指導と御援助を希ふ次第である。

22.6.1.幹事記。

建築と社會

第28輯　第3.4.5號
每月1回發行　賣價1部 金10圓
昭和22年7月10日 印刷
昭和22年7月15日 發行

編輯發行人　戶川弘
發行所　社團法人 日本建築協會
大阪市北區中之島3の3朝日ビル
電話土佐堀（44）1836•3631番
電話福島（45）2862～2867番
振替口座大阪39975番

印刷人　山口忠司
印刷所　株式會社 大洋社
大阪市西區江戶堀上通2の52
電話土佐堀(44)717番

●第二八集 第三・四・五号 掲載広告一覧（掲載順）

嘉納組
池上組
ミラノ工務店
竹林塗装工業
窪島プレス工業所
あめりか屋
浅海電気産業
三和工務店
山崎組
久保商店
盛工務店
増成土木建築
中島組
和田組
奥村組
大洋建設
浅沼組
清水組
進藤組
竹中工務店
新興土木建築
佐々木組

井上浄夫商店
藤木工務店
中道組
平野組
瀧田組
稲田製作所
大阪造園土木
鼎直一商店
汐見橋製材所
奥井組
日建工業社
伍賀木工所
野沢石綿興業
美素工業所
建築材料館
湯浅金物
大佛組
理想建築